第七百三十八條　受戻權能ノ行使ノ可分又ハ不可分ニ關スル第七百二十八條乃至第七百三十二條ノ規定ハ欠損ニ因ル銷除ニ之ヲ適用ス

第七百三十九條　公ノ競賣ニ在リテハ其競賣カ任意ナルモ欠損ニ因ル銷除ハ存立セス但裁判所ノ權ヲ以テ行フ賣却ノ爲ノニ定メタル公示及ヒ期間ヲ遵守シ且競賣ノ自由ニ何等ノ妨碍ヲモ加ヘサリシコトヲ要ス

第七百四十條　賣渡シタル權利又ハ辨濟ス可キ代價ノ性質ニ因リテ射倖ノ本色ヲ有スル賣買ハ欠損ノ爲ノニ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

（栗塚）本款ハ再調査員ニ於テ全節ヲ刪除セントス報告委員ニ於テモ之ニ贊同ヲ表セリ（清岡）個ハ起案者ニ質問シタルカ（栗塚）起案者ノ註解ヲ見ルニ只佛蘭西法ニモ明記アルヲ以テ之ニ模シタリトス云フニ過キス（尾崎）欠損ニ因ル銷除ハ存在セシメタシ從來弱冠ノ年齢ニ在ル者一時病情ニ惑溺シ千金ヲ擲盡シタル末非常ノ低價ヲ以テ不動產ヲ賣却セントスルニ乘シ人ノ不幸ヲ佛倖シ之ヲ買得セントスル如キアレハナリ（松岡）契約ハ双方ノ間ニ有効ナリト云フ原則ヲ破ルヘシ此等ノ危險ハ不動產ニ存セス寧ロ動產ニアリ又此種ノ買者ハ大抵時日ヲ經過セサルニ早ク既ニ他人ニ賣却スヘキヲ以テ實際上買戻ヲ爲シ得ル者多カラサルヘシ（元尾崎）此種ノ規定ハ非常ニ混雜ヲ醸生スルノミナラス財產上ノ安固ヲ失フヘシ（清岡）世途ニ顯出スル民事上ノ有形ハ非常ノ凹凸アルモノハ之ヲ許スヘキモノニアラス保護法ヲ設テ之ヲ極救セサルヘカラス結局本款ハ全然刪除ニ決ス

第四款　隱潛ノ瑕疵ニ因ル賣買撤却訴權

第七百四十一條　動產ト不動產トヲ問ハス賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於

テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラス又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物ヲ(シテ)其性質若クハ當事者ノ一致ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ買主ハ其賣買ノ瑕却ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ辨濟代金ト契約費用トヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

（村田）隱潛ト云フ字ハ平穩ナラサレハ隱レタルト云フヲ可トス（栗塚）其性質若クハ當事者ノ一致ノ用方ニ不適當ナラシメトアルハ其性質ニ依リ若クハ當事者ノ一致ニ依ル用方トシテハ如何（南部）其性質上若クハ合意上ノ用方トスヘシ（清岡）合意上ト云フハ平穩ナラス（尾崎）合意上ト云フニテ可ナリ可決ス

第七百四十二條　買主カ隱潛ノ瑕疵ノ賣買瑕却訴權ヲ行フ程ニ重大ナルヲ證明スルコト能ハス又ハ物ヲ保持スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代金ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

（栗塚）隱潛ハ隱レタルトシ證明ハ疎明トスヘシ（松岡）此點ハ證スルトセサルヘカラス（南部）保持スルトアルハ保有トスヘシ（清岡）保有トスルヲ可トス可決ス（栗塚）證明ハ疎明トスヘシ未タ他ヨリ爭論ヲ起シ來ラサル前ニ辯明スルノ意義ナレハ證スルト云フヲ得ス（松岡）原告ヨリ擧證スルノ意義ナレハ證スルトセサルヘカラス（箕作）此點ハ證スルノ意義ニハ相違ナシ（栗塚）證スルト云フ意義ニハ相違ナキモ文字ノ行用上他人ヨリ爭論ヲ起シ來ラサル前ハ之ヲ辯明スルヲ疎明トシタレハナリ（松岡）既ニ相手方アルトキハ未タ辯論ヲ開始セサルモ證シト云ハサルヘカラス（清岡）疎明トシテ可ナリ可決ス

第七百四十三條　買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代金ノ減少ヲ得

タルニ拘ハラス賣主カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失フタル利益ニ付テノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

無異議

第七百四十四條　隱滯ノ瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ賣主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詭譎ヲ以テ隱蔽シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

本條隱滯ノ文字ハ例ニ從ヒ隱レタルトシ詭譎ハ詐欺トス

第七百四十五條　賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタルコト其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生シタルコト及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコトハ人證、假定其他ノ法律上ノ舉證方法ヲ以テ之ヲ證明ス

本條證明ストアルモ之ヲ證ストス（南部）舉證方法ト云フ字ハ訴訟法ニハ之ヲ證據方法トシタレハ同一ニスヘシ（松岡）訴訟法ニテ證據方法トシタルハ誤ナリ（村田）本法モ既ニ第三百六十七條ニテ舉證方法トアルヲ證據方法トシタルニアラスヤ（南部）舉證方法ト云フ字ハ已ニ訴訟法ニテ證據方法ト論決シタレハ其決議ニ從ヒ追テ訴訟法ニテ同文字ニ付キ修正スルヤ否ヲ決スヘシ其議ニ決ス

第七百四十六條　賣買廢却、代金減少及ヒ損害賠償ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スコトヲ要ス

第一　不動產ニ付テハ六ケ月

第二　動產ニ付テハ三ケ月

第三　默示ニ付テハ一ケ月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス

然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短縮ス但其殘期カ此半ヲ超ユルトキニ限ル



日本學術振興會

買主カ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ右期間ニ隠潜ノ瑕疵ヲ覺知スル能ハサリシコトヲ證明スルトキハ其期間ノ滿了後ニ於テモ訴ヲ受理セラルコトヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ノ止ミタル時ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間トス

（栗塚）本條第二項不可抗ノ力トアル「ノ」ヲ削リ隠潜トアルハ隠レタルトシ訴ヲ受理セラルコトトアルハ訴ヲ爲スコトトスヘシ（元尾崎）歇斯ト云フ字ハ蜂類ヲ包含セサルヤ（槇村）動物トスヘシ可決ス

第七百四十七條　隠潜ノ瑕疵ニ基キタル代金減少ノ訴權ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償ニテ讓渡シタルモ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ爲ノ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又ハ買主自ラ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラルヽノ危險ニ在ルトキニ限ル

本條隠潜ノト云フ文字ハ例ニ從ヒ隠レタリトス



第七百四十八條　賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ全部又ハ半以上滅失シタルトキハ賣買廢却訴權ハ受理セラレス

滅却部分ノ多少ニ拘ハラス代金減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シ存立ス

如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隠潜ノ瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ滅失ノ責ニ任ス

本條モ例ニ從ヒ不可抗ノ力トアルヲ不可抗力トシ隠潜ノトアルヲ隠レタルトス（南部）賣買廢却訴權ハ受理セラレスト云フハ妥當ナリヤ（栗塚）賣買廢却訴權ヲ行フコトヲ得ストシテハ如何可決ス

第七百四十九條　合式ノ強制賣却ハ賣買廢却訴權ヲモ代金減少訴權ヲモ生セス

無異議



日本學術振興會

第七百五十條　或ル獸畜、物品又ハ日用品ノ隱潛ノ瑕疵ニ付キ特別法ヲ以テ其賣買上ノ効果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ此等ノ物ノ賣買ニ適用ス

（栗塚）物品ノ文字ハ刪除シタシ本條ハ動物ト日用品トヲ擧ケタルモノニシテ他ノ物品ヲ指スモノニアラサレハナリ（清岡）本條ハ必要ト認メス（栗塚）他日此點ニ關スル特別法ヲ制定スルトキハ本條ハ其効ナシ（清岡）本條ハ存在セシムルモ害アルニアラサレハ敢テ刪除スルニ及ハス其議ニ決ス

## 第四節　不分物ノ競賣

第七百五十一條　不分財產ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人タリトモ現物ノ分割ヲ拒ム者アルトキハ其財產ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各有權者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代金ヲ配當ス

無異議

第七百五十二條　共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキハ不分物ノ競賣ハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ之ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル公賣方式ニ從フコトヲ要ス

共同競賣者ノ各自ハ常ニ競賣ニ付キ第三者ノ參加ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ參加ハ當然且必要ナリトス

（南部）民事訴訟法ニ定メタル公賣トアルハ同法ニハ競賣ノ文字ヲ使用シタルニ依リ民事訴訟法ニ定メタル競賣トスヘシ可決ス（箕作）第二項第三者トアルハ外人トスヘシ可決ス

第七百五十三條　共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ競賣又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社及ヒ相



日本學術振興會

續ノ分割ニ關シ規定シタル効力ヲ生ス

第三者ニ競賣又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ効力ヲ生ス

（元尾崎）共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハト云フハ如何シテ之ヲ取得スヘキヤ（村田）競賣又ハ賣却ニテ得取スルナリ（元尾崎）競賣又ハ賣却ヲ以テ得取シトシテハ如何（清岡）競賣ノ上ニ其ト云フ字ヲ加フレハ明瞭ナルヘシ可決ス

## 第十三章　交換

第七百五十四條　交換ハ當事者ノ一方カ取得シ又ハ要約シタル或ル物ノ所有權其他ノ權利ノ對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スルノ契約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス





金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ超ユルトキハ其契約ハ之ヲ賣買ト看做ス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ第一項ヲ交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ諾約セシメ其對價トシテ或ハ物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スルノ契約ナリトシタシ可決ス

第七百五十五條　當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ對スル妨碍及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ要約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ其遂行ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノヲ取戻スコトヲ得但執レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動產ニ付キ權利ヲ取得シタル第三

日本學術振興會

者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但第三百七十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ名義ノ登記又ハ記入ヲ爲シタルコトヲ要ス

（栗塚）本條ハ第二項要約シタル物トアルヲ他ノ一方ノ諾約シタル物トシタシ可決ス（元尾崎）前條第二項「之ヲ均一ニス」ト云フハ法律上之ヲ均一ニスルカ如シ（栗塚）當事者間ニテ之ヲ均一ニスルヲ得ト云フ意義ナリ（元尾崎）他ノ物ヲ以テ補足ヲ均一ニセサレハ不都合アリヤ（笑作）不均一ニテハ贈遺ノ部分トナレハナリ

第七百五十六條　賣買ノ規則ハ交換ニ之ヲ適用ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ストキハ生贈ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スルノ規則ヲ適用ス

第三項刪除建議　理由ハ賣買ノ豫約ヲ廢スル故ナリ

第四項刪除建議　理由欠損ニ由ル銷除ヲ廢スル故ナリ

當事者ノ一方又ハ双方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ約束シタルトキハ第六百六十四條ニ從ヒ賣買ノ豫約ヲ以テ

第三者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

交換ハ欠損ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

（栗塚）本條第二項生贈トアルヲ贈與トシ第三項約束ト云フ字ヲ要約トシ第四項ハ刪除シ第一項ハ但書ヲ刪除シ「規則ハ」ノ下「左ノ例外ヲ以テ」ノ七字ヲ挿入スヘシ（元尾崎）左ニ規定スルモノヲ除ノ外トシテハ如何報告委員ノ意見ニ可決ス

## 第十四章　和解

第七百五十七條　和解ハ當事者カ交互ノ譲合又ハ出捐ヲ爲シテ已ニ生シタル爭ヲ落着セシメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防スルノ



日本學術振興會

契約ナリ

和解ノ成立、有効及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外契約ニ關スル總般ノ規則ニ從フ

（栗塚）本條ハ例ニ從ヒ契約ヲ合意トシ總般ト云フハ一般トスヘシ可決ス

第七百五十八條　無能力者ニ關スル和解ノ有効ニ要スル條件ハ本法ノ第一篇ニ之ヲ規定ス

國、府縣、市町村及ヒ公設所ニ關スル和解ハ行政法ノ規定ニ從フ

（栗塚）本條第一項「本法」以下ヲ改メ「無能力者ノ財產管理ノ規定ニ從フ」ト爲スヘシ吾々報告委員ニ於テハ人事篇ノ成稿アルヤ否ヲ想像スルヲ得サレハナリ（松岡）本條ハ全然刪除スヘシ（南部）別項ノ如キハ刪除スヘキ理由ナシ（元尾崎）別項ハ刪除セサルニ附スヘカラス結局全刪除ニ決ス

第七百五十九條　和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

但其錯誤カ相手方ノ詭譎ニ起因スルトキハ此限ニ在ラス

無異議

第七百六十條　和解ハ僞造ノ書類又ハ無効ノ行爲ニ因リ承諾シタルコトヲ理由トシテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ僞造又ハ其行爲ヲ法律ニ於テ無効ナラシムル事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）本條ハ其書類ノ僞造ト云フ下ニ「ヲ知ラス」ト云フ文字ヲ足シ無効ナラシムル事實トアルヲ無効ナラシムル所ノ事實トスヘシ原案ノ儘ニスレハ僞造ヲ知ラスト云フ意義ヲ顯著ナラシメス又無効云々ハ假令ハ司法大臣ノ認印ヲ要スヘキモノタルヲ了知シテ故ラニ之ヲ落印シタルニアラス只其認印ヲ誤脫シタル事實ヲ知ラサリシ場合ヲ云フニアレハナリ可決ス（笑作）行



日本學術振興會

爲ニ因リトアルハ行爲ニ依リトスヘシ可決ス

第七百六十一條　爭ノ定マリタル原因ニ由リテ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書ニ因リテ當事者ノ一方カ爭ノ一箇若クハ數箇ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且爭フ可カラサル權利ヲ有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得

確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ヲ以テ已ニ爭ヲ落着セシメタル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ルニ利益アル當事者カ之ヲ知ラサリシトキモ亦同シ

然レトモ和解カ從前ノ原因ヨリ生スル有ル可キ總テノ爭ヲ落着セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證書ノ發見ハ其證書カ相手方ノ所爲ニ因リテ扣留セラレタルニ非サレハ其和解ノ銷除ヲ生セス



（栗塚）本條第一項爭ノ定マリタル原因ニ由リトアルヲ定マリタル爭ニ付キトシタシ（元尾崎）定マラサル爭ヒアリヤ（栗塚）一定ノ爭ヒト云フ義ナリ（筑作）總テノ爭ヒニアラサル特定ノ爭ヒト云フカ如シ（横村）一個ノ爭ヒト云フ義カ（筑作）一個又ハ數個ニテモ定マリタル爭ヒヲ云フ可決ス（栗塚）爭ノ一個若クハ數個ノトアルヲ「一個若クハ數個ノ」ノ文字ヲ刪除スヘシ可決ス第三項生スル有ルトアルヲ生スルコト有ルトス

第七百六十二條　有効ノ和解ハ當事者ノ相互ニ認定シタル權利又ハ利益ニシテ已ニ生シ又ハ豫見シタル爭ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ判認ノ効力ヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但當事者双方ニ更改ヲ爲スノ意思アリシトキハ此限ニ在ラス

此ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ約束シタル權利又ハ利益ノ全部若ク



日本學術振興會

ハ一分ニシテ爭ノ目的タラサリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有償名義ニ關スル契約ノ規則ニ從フ

（栗塚）本條ハ認定トアルハ追認トスヘシ又判認ノ文字ハ權利表白トシタシ何トナレハ判決ニ依リ權利ヲ生シタル旨ニアラスシテ判決ハ既存ノ權利ヲ確認スルト云フ義ナリ元來確定裁判ニハ二種アリ一ハ權利ヲ移轉セシノ一ハ權利ヲ確認スルニアリ本條ノ如キハ權利ヲ移轉スルニアラスシテ既存ノ權利ヲ確認スル義ナレハナリ（南部）權利表白ト云フハ平穩ナラス權利認定トスヘシ（筑作）民事上ノ判決ニ權利ヲ移轉スル場合アリヤ（栗塚）第六百三十四條ハ已ニ削除サレタルモ該條ノ如キハ權利ヲ移轉スルノ判決トナルヘシ結局權利認定トスルニ可決ス

## 第十五章　特定會社

### 第一節　會社ノ性質及ヒ設立

第七百六十三條　總般ノ會社ノ設立ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ收ムル爲メ財產ヲ共通シ又ハ共通セント約束スルノ契約ナリ

特定會社ハ或ハ物ヲ共通シテ利用スル爲メ或ハ一定ノ事業ヲ成シ又ハ職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル物ノ出資ヲ爲シ又ハ之ヲ約束スルノ會社ナリ

（栗塚）本條第一項ハ總般ノト云フヲ凡ソトシ會社ノ設立ハトアルヲ會社ハトシ共通セント約束スルノ契約ナリトアルヲ共通スルコトヲ諾約スルノ契約ナリトシ第二項ハ或ハ物ヲトアルヲ或ル物ヲトシ或ハ一定ノトアルヲ又ハ或ルトシ又ハト云フ字ヲ若クハ或ルト修正シタリ（清岡）設立ノ文字ハ存スヘシ（栗塚）會社ハ屋宇ヲ指スニアラス無形体ヲ指スモノナリ（元尾崎）本章ハ刪除ノ建議アリ如何（栗塚）民法ハ恰モ會社ノ本家ノ如ク



日本學術振興會

商法ハ會社ノ末家ノ如シ世運ノ進歩スルニ從テ末家ノ業務昌盛ニ趨スルハ自然ノ道理ナリト雖トモ末家ノ業務繁昌ニ趨クカ爲ノ本家ノ地ニ居ル民法ヲ省サル所以ナシト云フニアリ

第七百六十四條　商事會社ニ特別ナル規則ハ商法又ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

包括會社ニ特別ナル規則ハ本篇第二部第二章ニ於テ之ヲ定ム

（栗塚）本條第二項ハ報告委員ニ於テ削除シタシトス（松岡）包括會社ト云々ヲ削除セントスレハ特定會社ト云フ稱謂ヲ廢シ單ニ會社トシ置ケハ可ナリ（南部）本節ハ特定會社ノ精神ヲ以テ編纂シタルモノナレハ特定會社ト云フ稱謂ヲ廢スルハ不可ナリ（松岡）會社ト云ヘハ各人相集リテ各自ノ利益ヲ計ルモノニ過キサレハ包括ト云ヒ特定ト云フ區別ヲ要セス（南部）會社ト云フモ單ニ何種ノ會社タルカ區別スルヲ得サルハ不可ナリ（尾崎）第二項ヲ削除シ第一項ノミ存シ置クヲ可トス（松岡）特定ト云ヘハ包括ノ文字アラサルヘカラス結局第二項ノミヲ削除スルニ決ス

第七百六十五條　社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術勞力ヲ以テスルコトヲ得

出資ハ不均一ナルコトヲ得

無異議

第七百六十六條　民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ無形人ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲ノ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

（元尾崎）本條ノ民事會社トアルハ如何（栗塚）商事會社ハ勿論無形人ナリト雖トモ民事會社モ亦意思ニ因リテ無形人トスル

原案ニハ此條ニ第三項アリ之ヲ銷除シタル理由如何



日本學術振興會

ヲ得ヘシト云フニアリ（元尾崎）會社ト云ヘハ已ニ商法部内ニ屬スヘシ（松岡）會社ト云ヘハ登記公告ヲ爲スモノナレハ無論商法部内ニ入ルヘシ民事會社ト云フハ僅カニ組合ト云フ組織体ニ過キサレヘシ又本條第三項ヲ刪除シタル理由ハ如何ト云フ論結ニ付テハ理由ナシトセス（南部）社名ヲ付シタレハ迚之ヲ無形人ト觀做スコトヲ得ストス（栗塚）公告ト云フ文字ハ公示トシタシ（松岡）公示ト云ヘハ登記公告ヲ包ルモノトナルヘシ（笑作）公示トシテ妨ナシ

第七百六十七條　契約ノ總般ノ規則ハ會社ニ之ヲ適用シ殊ニ當事者ノ承諾、能力、目的、原因及ヒ證據ニ之ヲ適用ス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、目的、原因及ヒ證據ニ關スル者ハ會社ニ之ヲ適用ストシタシ可決ス

日本學術振興會



第七百六十八條　會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

無異議

第二節　社員ノ權利及ヒ義務

第七百六十九條　會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ帶ハシメタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其約束シタル出資ノ差出ヲ實行スルコトヲ要ス之ヲ實行セサルトキハ其社員ハ當然出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

（栗塚）第二項ハ出資ノ差出ヲ實行スルコトヲ要ス之ヲ實行セサルトキハトアルヲ出資ヲ差出スコトヲ要ス之ヲ差出サヽルトキハトシタシ（元尾崎）差出ハ商法ト同シク差入トスヘシ可決

日本學術振興會

ス（栗塚）其約束トアルヲ其諾約シタルトスヘシ可決ス

第七百七十條　會社ニ對シテ技術又ハ勞力ノ出資ヲ約束シタル社員カ其諾約ヲ欠キタルトキハ其社員ハ他ノ社員ノ選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ欠キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用イテ得タル利益ヲ讓與スルノ責ニ任ス

本條ハ約束ノ文字ヲ諾約トセリ

第七百七十一條　動產ト不動產トヲ問ハス特定物ノ所有權ヲ出資トスコトヲ約束シタル社員ハ會社ニ對シ賣主ト同シク其物ノ追奪又ハ面積、數量ノ不足及ヒ隱潛ノ瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス

又社員カ物ノ收益權ノミヲ出資ト爲スコトヲ約束シタルトキハ賃貸人ト同シク擔保ノ責ニ任ス

（栗塚）本條ハ約束ヲ諾約トシ隱潛ノト云フヲ隱レタルトシ追奪ノ上ニ起案者ヨリ妨碍ノ文字ヲ挿入シ來レリ可決ス

第七百七十二條　會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ支配人ヲ選任シタルトキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ踰ユルコトヲ得ス權限ノ定マラサル支配人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行爲ヲ爲スニ止マル

又支配人ハ會社ノ目的中ニ存スル一層重要ナル行爲ニ付テハ共同ニテノミ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行爲ヲ中止シ總社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

（栗塚）支配人ノ文字ハ商法ト同シク皆業務擔當人トシ多數ト云フハ過半數トスヘシ可決ス（元尾崎）一層重要ト云ヘハ其目的中ヨリ重要ナル意義ノ如シ（松岡）一層ノ文字ハ刪除スヘシ（栗塚）目的中ニ存スル一層重要トアルハ目的中ノ重要トシテハ如何可決ス



日本學術振興會

第七百七十三條　會社契約ヲ以テ支配人ヲ選任セサル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ選任セサルノ間ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行爲ヲ同一ノ條件ニ從ヒテ爲スノ權ヲ有ス

本條ハ支配人トアルヲ前例ニ從ヒ業務擔當人トセリ

第七百七十四條　會社契約ヲ以テ支配人ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルトキ又ハ其承諾ヲ得及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルトキニ非サレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルコトヲ得ス

會社契約以後ノ行爲ヲ以テ選任シタル支配人ハ之ヲ選任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セスシテ之ヲ解任スルコトヲ得

本條ハ支配人トアルヲ前例ニ從ヒ業務擔當人トセリ（松岡）第二項行爲ノ文字ハ契約トセサルヘカラス可決ス（栗塚）第一項其承諾ヲ得及ヒトアル「ヲ得」ノ二字ハ削除スヘシ可決ス

第七百七十五條　支配人ヲ選任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭任又ハ解任アリテ是等ノ事件ノ爲ノニ會社ノ解散セサルトキハ總社員ノ多數ヲ以テ其補欠者ヲ選定ス

本條ハ支配人ヲ業務擔當人トシ多數ヲ過半數トセリ

第七百七十六條　右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル諸般ノ處分ハ亦社員ノ完全多數ヲ以テ之ヲ定ム

定款ノ違反又ハ定款外ノ行爲ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス

本條ハ定款又ハ法律ノ此ニ反スル規定ヲ妨ケス

（栗塚）本條ハ諸般ノトアルヲ總テノトシ完全多數トアルヲ過半數トスヘシ（村田）定款ノ違反ト云フ文字ハ平穩ナラス違反ト云ヘハ惡意ヲ含ムト云フ觀アレハナリ（清岡）定款ニ反スル行爲トシタシ可決ス

第七百七十七條　第三者カ會社ト支配人タル社員ノ一人トニ對シテ

同性質ノ債務ヲ負擔シタルトキ其第三者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金錢又ハ有價物ヲ右社員ニ辨濟スルニ於テハ其社員ハ會社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債權ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得ス但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正當ノ利益ナクシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルトキハ社員ハ其辨濟ノ額內ヨリ右ノ割合ニ應スル部分ヲ會社ニ讓與スルノ責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有効ナル充當ヲ爲サヽルトキハ第四百九十三條ニ從ヒ法律上ノ充當ノ規則ヲ適用ス

（栗塚）支配人タルト云ヘルハ業務擔當トスヘシ可決ス（笑作）讓與スルノ責ニ任スト云フハ交付スルノ責ニ任ストスヘシ（栗塚）第七百七十條ノ讓與モ本條ト共ニ交付トスヘシ可決ス



第七百七十八條　支配人タルト否トヲ問ハス社員ニシテ會社ノ債務者ヨリ會社ニ對スル債務ノ一分ヲ受取リタル者ハ場合ノ如何ニ拘ハラス共同ノ社員ニ之ヲ利得セシムルコトヲ要ス但自己ノ持分トシテ受取證書ヲ與ヘタル時ト雖モ亦同シ

本條ハ支配人トアルヲ例ニ從ヒ業務擔當人トセリ（元晶崎）會社ノ債權者ハ會社ト云フ無形人ニ對シテ請求スルヲ得サル（栗塚）公示ノ方法ハ商事會社ノ規定ニ依ルヘキモ民事會社ハ依然タル民事會社タルヘシ登記公告ヲ爲シタレハ迚商事會社トスルヲ得ス（笑作）商業ヲ營ム會社ハ商業會社ナリ商業ヲ營マサル會社ハ民事會社ナルヘシ（渡）共同ノ社員トアルハ會社トシテ不都合ナシ可決ス

第七百七十九條　支配人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過失又ハ怠ニ因リテ會社ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス



日本學術振興會

此損害ハ社員カ會社營業ノ或ル他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシメタル利益ト相殺スルコトヲ得ス但其事件ノ互ニ牽連シタルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ支配人トアルヲ例ニ從ヒ業務擔當人トセリ

第七百八十條　會社契約ヲ以テ支配人ヲ選任セサル爲メニ業務ヲ執行スル社員ハ自己ノ業務ヲ執行スルト同一ノ注意ヲ加ヘサルトキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セス

（栗塚）本條ハ業務ヲ執行スルトアルヲ業務ヲ取扱フトシ「業務ヲ執行スルト同一」トアルヲ「業務ニ於ケルト」トシ支配人ハ業務擔當人トスヘシ可決ス

第七百八十一條　各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得ル金額ナキトキハ會社ノ所屬物ニ關スル必要及ヒ保持ノ費用ヲ自己ノ權利ノ割合ニ應シテ分擔スルノ責ニ任ス



日本學術振興會



無異議

第七百八十二條　右ニ反シテ支配人タルト否トヲ問ハス各社員ハ會社ヲシテ自己ノ出資外ニ會社ノ爲メノ有益ニ立替ヘタル金額ヲ返還セシメ又ハ會社ノ利益ノ爲メノ善意ニ負擔シタル義務ヲ認諾セシメ又ハ會社ノ營業ノ爲メノ自己ノ財産ニ受ケタル避クルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得

本條ハ支配人トアルヲ業務擔當人トセリ

第七百八十三條　會社營業ノ爲メノ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

此ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メノ會社資本中ヨリ引出シタル金額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其利息ヲ負擔ス但此場合ニ於テ一層大ナル損害ヲ生セシメタルトキハ尙ホ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

（尾崎）一層大ナルト云フ字ハ刪除シテハ如何（栗塚）且損害

日本學術振興會

アルトキハ賠償ノ責ニ任ストシタシ（筭作）其利息ヲ負擔ストアルハ其利息ヲ負擔シトシ但云々トアルハ尙ホ損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ストスヘシ可決ス

第七百八十四條　社員ハ會社ノ存立中ニ得タル利益ニ因リテ增加シ又ハ受ケタル損失ニ因リテ減少シテ會社解散ノ際ニ現在スル會社資本ニ付キ其相互ノ持分ヲ會社契約又ハ其後ノ行爲ヲ以テ曖昧ニ定ムルコトヲ得但第七百八十六條ニ揭ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

（栗塚）行爲ノ字ハ契約トスヘシ可決ス（松岡）本條ハ會社ノ存立中ニ得タル利益ニ因リテ增加シ又ハ受ケタル損失ニ因リテ減少シテトアルヲ刪除シタシ可決ス（槇村）會社資本ニ付キトアルハ資本ニ於ケルトスヘシ可決ス

第七百八十五條　社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ約束スルコトヲ得然レトモ利益ノミヲ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ約束シタリトノ推定ヲ受ク如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ扣除シ會社ノ貸方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ配當ス可キノ利益ト看做サス又右貸方ヲ拂盡シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス然レトモ會社ノ存立中ニ讓渡ナクシテ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ之ヲ變更セス

（栗塚）本條讓渡ト云フ文字ハ詐害トスヘシ（松岡）詐害ハ詐欺トシタシ可決ス（松岡）貸方ヲ拂盡シト云フハ如何（栗塚）有金ヲ盡シタルトキヲ云フ（松岡）借方ヲ拂盡スト云ヘハ語調平穩ナルモ貸方ヲ拂盡スト云フハ語路ヲ成サヽルナリ（南部）貸方ヲ竭シタル後トスヘシ可決ス

第七百八十六條　會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ返ス可キ約款ハ無効ナリ

技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ非サル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免レシム可キ約款モ亦同シ

會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第七百八十九條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

（清岡）右ノ約款ヲ附記シ云々ハ約款ハ無効ナルモ契約ハ存立セシメサルヲ得ス（栗塚）然ルヲ得ス

第七百八十七條　社員ハ自己ノ選任シタル又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ會社契約又ハ其後ノ行爲ヲ以テ約束スルコトヲ得

仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル方式若クハ條件ヲ履行セサルカ又ハ顯然公平ヲ失シタルトキニ非サレハ之ヲ攻擊スルコトヲ得ス

右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタルト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ此レヲ知リタルヨリ三ケ月ヲ經過シタルトキハ之ヲ受理セス

（栗塚）本條ハ約束ノ文字ヲ合意トシ行爲ノ文字ヲ契約トシ顯然ノ文字ヲ明カニトシ此ヲ知リタルトアルハ其定方ヲ知リタルトスヘキニ然ラサルハ寫字ノ誤ナリ（松岡）仲裁人ニ關スルモノハ訴訟法ト如何ナル關係ヲ有スルヤ（栗塚）仲裁人ノ定方其他本法ニ抵觸セサル限リハ訴訟法ニ依ルヘシ（清岡）商事會社ニ在テハ仲裁裁判ヲ無効トスル請求ハ一ケ月間ニ限ルヘキニ民

法ニハ之ヲ三ケ月トシタルハ牴觸スルニ非スヤ（栗塚）個ハ期間ノ論點ニ關スルモノニシテ牴觸ノ問題ニアラス（松岡）三ケ月ト一ケ月トノ差異アル理由及ヒ其他兩法ニ關スル差異ヲ調査シタシ（栗塚）其點ハ吾々報告委員ニテ調了スヘシ

第七百八十八條　會社契約ヲ以テ持分ノ定分ヲ仲裁人ニ委任ス可キコトヲ定メタル場合ニ於テ少ナクトモ社員ノ過半數カ仲裁人ヲ選任スルコトニ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ其選任ヲ爲ス

選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサルニ當リ社員カ其改選ニ付キ一致セサルトキモ亦同シ

本條ハ前條ト共ニ報告委員ノ調査ニ付ス

第七百八十九條　社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト爲リタルトキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應シテ之ヲ其間ニ配當ス



社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財產トヲ出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額ノ外尙ホ其財產ノ價額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

（栗塚）本條ハ商法第百五條ニ模倣シタリ

第七百九十條　各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシメ其持分ヲ賈入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス但會社契約ヲ以テ社員ニ此權利ヲ認許シ又ハ會社資本ヲ株式ニ分ケタルトキハ此限ニ在ラス

右二箇ノ場合ニ於テ會社カ社員ノ讓渡サントスル持分又ハ株式ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持分ヲ讓渡サントスル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ又ハ拋棄スルカニ付キ之ヲ遲滯ニ付スルコトヲ要ス



日本學術振興會

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ第一項「又ハ會社資本ヲ株式ニ分チ」ト云フヲ刪リ第二項ハ右二個ノ場合トアルヲ「右權利ノ讓渡ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ許シタル場合トシ持分ノ下「又ハ株式」ノ四字ヲ刪除セリ（元尾崎）右二個ノ場合トアルハ右末ノ場合トシテハ如何（松岡）右ノ場合ト云フヲ可トス可決ス（松岡）其持分ヲ讓渡スコトヲ得トアルハ是等ノ行爲ヲ以テ會社ニ對抗スルヲ得スト云フハ不都合ナリ（委員長）讓渡スルニハ妨ケナキモ甲乙間ノ關係ニ止マリ會社ニ對抗スルヲ得ス（松岡）會社ニ對抗スルヲ得スト云フ制限ニ止メルトキハ他ノ第三者ニ對抗スルヲ得ヘシ（委員長）會社ニ對抗スルヲ得サルモノニシテ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキ理由ナシ（南部）他ノ第三者ニ關シ論スヘキニ及ハス（笑作）會社及第三者ニ對抗スルヲ得ストシテハ如何（栗塚）第三者ト云フ文字ヲ記載セサルヘカラサル必要アリヤ（笑作）第三者ニ對抗スルヲ得ヘキヤト云フ疑點アルヲ以テ之ヲ防止センカ爲ナリ（栗塚）第三者ト云フ地位ヲ想像スル場合ハ如何（笑作）自己ノ債權者トスルモ會社ノ債權者トスルモ可ナリ（栗塚）會社ノ債權者トセハ其場合ナキニ限ラサルモ敢テ之ヲ明記スヘキ必要ナシ（松岡）其持分ヲ讓渡スルコトヲ得ト云ヘハ讓渡シタル者ハ會社ニ對シ權利義務ナカルヘシ然ルニ被讓渡者ハ會社ニ對シ對抗スルヲ得スト云フハ道理貫通セサルヘシ（西）會社ニ對抗スルコトヲ得サルモノトセハ會社ノ債權者ニ對シテモ對抗スルヲ得サルコト知ルヘシ（栗塚）會社ニ對抗スルコトヲ得スト云フ文字ニ付テハ報告委員ニ於テ調査シタシ其議ニ決ス

第七百九十一條　支配人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有効ニ負擔シタル義務ハ會社カ無形人ヲ成セルトキハ各社員ノ一身

上ノ債權者ニ先タチ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保ス

會社資本ノ不十分ナル場合又ハ其資本カ訴追シタル債權者ニ示サレサル場合ニ於テハ總社員ハ連帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ無形人ヲ成サヽルトキモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ各社員間ノ決算ハ第七百八十四條乃至第七百八十九條ニ規定シタル貸方及ヒ借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從ヒテ之ヲ爲ス

（栗塚）第一項ヲ報告委員ニテ支配人ト云フ字ハ業務擔當人トシ「會社カ無形人ヲ成セルトキハ」ト云フ文字ヲ刪除シ擔保ストアル下ニ但會社ノ無形人タルトキニ限ルト云フヲ足セリ（箕作）但會社ノ云々ヲ附加セス會社カ無形人云々ノ原案ヲ可トス

（栗塚）報告委員ノ修正ハ取消ニ付スヘシ

第三節　會社ノ終止

第七百九十二條　會社ハ左ノ諸件ニ依リテ當然終止ス

第一　會社契約ヲ以テ指定シタル時期ノ滿了又ハ解除條件ノ成就

第二　會社ノ目的タル事業ノ成効又ハ其成功ノ不可爲

第三　申込ミタル會社資本ノ全部又ハ半額ヲ超ユル損失

第四　社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ牧金ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ爲スノ不可爲

第五　社員ノ一人ノ死亡、禁治產判認ノ破產又ハ顯然ノ無資力

但第七百九十五條ノ規定ヲ妨ケス

（栗塚）終止ハ終了トシ不可爲トアルヲ不能トシ判認ノ文字ハ刪除スヘシ（村田）申込ミタルト云フ文字ハ却テ疑義ヲ生スルニ付刪除シタシ可決ス

第七百九十三條　會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルコトヲ得



日本學術振興會

第一　如何ナル場合ヲ問ハス社員ノ一致ノ意思

第二　明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ惡意ニ非ス又都合ノ時期ニ非スシテ解散ノ請求ヲ爲ストキハ社員一人ノ意思

第三　社員ノ一人ノ義務不履行ニ基キタル解除ノ訴又ハ會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求（栗塚）本條第三ハ報告委員ニテ會社ニ一定ノ期間アルトキト雖トモト云フヲ削除シ請求ノ下ニ但會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ亦同シトセリ原案ニテハ正當ノ理由云々ノミニ係ルモ社員ノ一人ノ義務不履行云々ニ係ラサレハナリ（村田）冒頭ニ冠セシメテハ如何（栗塚）然ルヘシ結局會社ニ一定ノ期間アルトキト雖トモ社員ノ一人ノ義務不履行ニ基キタル解除ノ訴又ハ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求トスルニ決ス（村田）第二ノ冒頭ニ會社ニノ文字ヲ冠セシメタシ可決ス

第七百九十四條　社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニテ之ヲ伸長スルコトヲ得

默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人タモ故障ヲ爲サスシテ會社營業ノ繼續シタル事實ヨリ生スルコトヲ得此場合ニ於テ會社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意思ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得

（渡）「一人タモ」トアルハ一人モトシタシ（元尾崎）一人タモトアルヲ可トス（北島）原案ノ儘ニテ可ナリ可決ス

第七百九十五條　社員ハ第七百九十二條第五號ニ掲ケタル原因ニ因リテ會社ヲ解散セス且欠ケタル社員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ繼續スルヲ約束スルコトヲ得

又社員ハ死亡シタル社員ノ相續人又ハ無能力ト爲リタル社員ト共



日本學術振興會

ニ會社ヲ繼續スルヲ約束スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ相續人又ハ合式ノ代理ナル無能力者ノ承諾ヲ要ス

（栗塚）欠ケタル社員ト云フ文字ハ欠員トシタシ可決ス（元尾崎）無能力者ト共ニ會社ヲ繼續スルヲ得ヘキヤ（栗塚）社員中無能力者ト爲リタルトキハ合式ノ代理人ト共ニ繼續スヘキ義ナリ（元尾崎）本條ノ文面上ニテハ無能力者ノ承諾アルヲ要スルカ如シ結局前項ノ場合ニ於テハ相續人又ハ無能力者ノ合式代理ノ新ナル承諾ヲ要ストスルニ可決ス

第四節　會社ノ清算及ヒ分割

第七百九十六條　會社ノ解散シタルトキハ社員ノ各員又ハ其承接人ヨリ清算ヲ請求スルコトヲ得

清算ハ分割前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ一分ノ分割ヲ先ニスルコトヲ請求シタルトキハ此限ニアラス

又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スコトニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得

（栗塚）起案者ヨリ社員ノ文字ノ上ニ舊ノ字ヲ加ヘ來レリ（松岡）舊ノ字ヲ加フルニ及ハス

第七百九十七條　清算ノ事務ハ左ノ諸件ナリ

第一　着手シタル事件ノ成就

第二　會社ノ債務ノ辨濟及ヒ其第三者ニ對スル債權ノ取立

第三　各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算ノ定方

第四　分割スヘキ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

（栗塚）本條清算ノ事務ハ左ノ諸例ナリトアルヲ清算ハ左ノ諸件ヲ包含ストシ第一ノ事件ト云フ文字ハ業務トスヘシ可決ス


日本學術振興會

第七百九十八條　會社契約中清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ハ已ムヲ得サル故障ナキニ於テハ之ヲ履行スルコトヲ要ス

會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ナキトキハ清算ハ或ハ總社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ委任シタル一人若クハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ選任シタル第三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ選任ス

（栗塚）本條第一項故障ノ文字ハ妨碍ト云フ文字ニ修正シタシ

（村田）異議トシテハ如何（松岡）前決議ノ如ク權限ニ關スル約款ナキトキハトシタシ（栗塚）第一項ヲ削除スレハ前段ノ精神ニ適合セリ可決ス

第七百九十九條　清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス遅ニ欠缺又ハ敗損ス可キ物ヲ譲渡スコトヲ要ス

滿期ト爲リタル債務ノ辨濟ノ爲ノ必要ナルトキハ此他ノ動産ヲ譲渡スコトヲ得

不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受ルニ非サレハ之ヲ抵當トシ又ハ譲渡スコトヲ得ス

前項ノ譲渡ハ協議上ニテ約束スルヲ許シタル場合ノ外ハ公賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス此等ノ處分ハ總テ社員ノ多數決ヲ以テスルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲裁ハ第三者ト通謀シタル詭譲ノ爲ノニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

（栗塚）本條第四項多數決ヲ以テスルコトヲ要ストアルハ起案者ヨリ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ要ストシ來レリ（尾崎）



日本學術振興會

第一項欠缺又ハ敗損トアルハ毀損又ハ滅失トシタシ可決ス

第八百條　清算ノ總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ多數決ヲ以テ足レリトス

其議決ハ總計算ヲ合セテ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

認可ヲ得ス且改正スルヲ得ヘキ計算ハ清算人其費用ヲ以テ之ヲ爲ス若シ改正スルヲ得サルトキハ清算人ハ代理ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス

清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル行爲ハ常ニ善意ナル第三者ノ爲メニ之ヲ維持ス

（栗塚）改正ト云フ文字ハ仕直トシタシ（清岡）仕直シト云フ意義ハ改正ニアラスヤ（栗塚）正ノ義ヲ帶ヒサレハナリ（笑作）仕直シトシテハ如何（元尾崎）改ムルトシタシ（村田）仕直トスルヲ可トス可決ス

第八百一條　株式ヲ以テ民事會社ヲ組織シタルトキハ商事ノ株式會社ノ規則ニ從ヒテ其清算ヲ爲ス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ全ク削除スヘシトス可決ス

第八百二條　會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ社員ノ各自又ハ其承接人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但當事者カ第四十條ニ從ヒ不分ニテ存スルコトヲ會社ノ解散後ニ約束シタルトキハ此限ニアラス

（松岡）分割ト云フ字ハ平穩ニアラス（村田）分割ノ文字ハ既ニ存用シ來レリ

第八百三條　配當部分ノ組成又ハ各當事者ニ對スル配當ニ付キ當事者ノ一致セサルトキハ財産ノ相續其他ノ共遝ノ分割ノ爲メ本法及ヒ民事訴訟法ニ定ノタル規則ニ從フ



日本學術振興會

（栗塚）各當事者ニ對スル配當ニ付キト云フ配當ノ文字ハ配賦ノ誤ナリ又財産ト云フ文字ヲ刪リ共通ノ上ニ財産ト云フ文字ヲ挿入シタシ（松岡）冒頭配當部分トアルハ分割部分トスヘキニアラスヤ（栗塚）俗ニ所謂一山ト云フ意義ナリ（尾崎）配當部分ト云フニテ可ナリ（南部）分割部分トスルヲ可トス（松岡）本節ノ題命ハ分割トアルニ付キ本條モ分割トセサレハ一定ナラス可決ス（松岡）民事訴訟法ニ定メタル規則ニ從フトアルモ個ハ訴訟法ニ明記ナシ（賓作）本條ハ全然刪除スルモ差支ナシ（南部）本法ノ規則ト云フ場合ハ存スヘシ本法ノ文字ヲ存スルトキハ相續法ノ成定ニ至ラサル間ハ單行ノ布告ヲ以テ之ヲ處理スルヲ得ヘケレハナリ（栗塚）本法ノ文字ヲ存スルモ人事篇ノ成定セサル間ハ本法中ニ掲載ナキニ依リ不都合トス（清岡）訴訟法中ニモ記載スルコトトシテハ如何（波）本條ハ報告委員ノ調査ニ付シタシ其議ニ決ス

第八百四條　會社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ返シタルモノニ關スル其社員ノ權利ハ會社解散ノ日ニ遡リテ効力ヲ有シ不分中ニ於テ他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ授與シタル權利ハ之ヲ解除ス

無異議

第八百五條　共同分割者ハ分割ニ因リテ取得シタル權利ノ上ニ受クルコト有ル可キ妨碍及ヒ追奪ニ付キ其各自ノ部分ニ應シテ相互ニ擔保ヲ爲ス

共同分割者ノ一人カ無資力ナルトキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ被擔保人ヲ併セテ他ノ共同分割者ノ間ニ之ヲ分付ス

（栗塚）共同分割者トアルハ共同ノ文字ヲ除キ此他ニ共同分割者トアルモ皆分割者トシタシ可決ス（栗塚）第一項取得シタル



日本學術振興會

日本學術振興會

權利ト云ヘル文字ハ擔保箱ニ至テ差支ヲ生スルニ付キ諸約セラレタル權利トシタシ可決ス（松岡）分付ト云フハ妥當ナラス分付ハ支那語ニテハ云付ルコトノ意味トナルヘシ（尾崎）分ツトスヘシ可決ス

第八百六條　分割ハ成年者ノ間ニ之ヲ爲シ且動産物ヲ目的トシタルトキト雖モ其分割者ノ受クヘキ部分ノ四分一ヲ超ユル欠損アルトキハ其者ノ爲メニ分割ヲ銷除スルコトヲ得

欠損ニ因ル賣買ノ銷除ニ關シテ第七百三十四條以下ニ規定シタル條件ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

（栗塚）已ニ欠損ノ條項ヲ削除シタル結果ニ從ヒ本條モ削除セサルヘカラス可決ス

## 第十六章　懸空契約

### 總則

第八百七條　懸空契約トハ當事者ノ双方若クハ一方ノ損益ニ付キ其効力ノ全部又ハ一分ヲ將來ノ不確實ナル事件ニ繫クルモノヲ謂フ

（尾崎）懸空ノ文字ハ最初ノ如ク射倖トシタシ（南部）射倖ノ文字ハ已ニ否決セラレ懸空ニ可決シタルニアラスヤ（笑作）射倖ト云フ文字ハ可ナリト思惟セルモ前會ニテ懸空ト決シタル以上ハ懸空ト爲シ置キタシ（渡）已ニ懸空ト決シタルモ事實ト文字ニ不適合アレハ修正ヲ要スヘシ結局射倖トスルニ決ス

第八百八條　懸空契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノアリ

博奕、賭事、終身年金權其他終身權利ノ設定、陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル懸空ノモノタリ

此他成立又ハ効力ヲ停止又ハ解除ノ未必條件ニ繫クル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル懸空ノモノナリ



日本學術振興會

（筭作）繫クルト云フ言調アリヤ（松岡）繫クルト云フモ可ナルヘシ可決ス

第八百九條　陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

## 無具議

### 第一節　博奕及ヒ賭事

第八百十條　博奕カ博奕者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體軀運動ヲ目的トスルニ非サレハ其義務履行ノ爲メ訴權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體軀運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接ニ爲ス農工商ノ業事ノ成功ノ爲メニスルニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博奕又ハ賭事ニ於テ約束シタル金額又ハ有價物カ情況ニ照シテ過度ナリト見ユルトキハ裁判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得スシテ全ク其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

（栗塚）冒頭ノ博奕カトアルハ博奕ハトシタシ可決ス（清岡）博奕ト云フ字ハ從來習慣ノ博奕ノ字ト同シカラサレハ賭事ノ文字ニ換ヘタシ（栗塚）自ラ爲ス場合ヲ博奕ト云ヒ他人ノ行爲ニ付キ財物ヲ賭スルヲ賭事ト云フノ差アリ（南部）字弊ヲ改正スルハ然ルヘシト雖トモ博奕ト賭事トヲ一文字ニスルハ不可ナリ（尾崎）力量巧技ヲ爭フ者ハ在來ノ習慣上博奕ト稱セス（松岡）博奕ノ文字ハ用語上妥當ヲ失スル感アルヘシ（栗塚）博奕ハ場口トハ異別ナリ原文ハ手慰ミト云フ意ナリ（松岡）博戯トシテハ如何（栗塚）賭戯トシテハ如何（北島）博戯ト云フハ妥當ナルヘシ可決ス

第八百十一條　前條ノ場合ノ外博奕及ヒ賭事ハ何等ノ義務ヲモ生セ



日本學術振興會

ス且其債務ノ認定、更改又ハ保證ハ總テ無効ナリ

然レトモ右博奕又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ取戻スコトヲ許サス但勝者ニ於テ詭譎又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラス

（尾崎）本條第二項但以下ハ削除シタシ（南部）但以下ハ詐欺刑ニ屬スヘキ性質ニシテ賭奕トハ異別ナレハ存在セシムルヘシ

（北島）詐欺ハ詐僞トシテハ如何欺瞞ノ欺ト區別センカ僞ノナリ可決ス

第八百十二條　官許ヲ得サル富籤ハ訴權ナキ博奕及ヒ賭事ニ關スル規定ニ從フ

商品又ハ公ノ證券ノ投機ノ定期賣買ニ付テモ初ヨリ當事者カ約束シタル金額又ハ有價物ノ引渡及ヒ辨濟ヲ實行スルニ意ナク單ニ相場昂低ノ差額ヲ計算スルノミヲ目的トシタルコトヲ被告カ證明スルトキモ亦同シ

（栗塚）本條第一項ハ賭事ニ關スル規定ニ從フトアルヲ賭事ト同視ストシ第二項約束ヲ約諾トシ被告カ證明ストアルヲ被告ノ證スルトシタシ可決ス

第八百十三條　前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ無効ノ排斥理由ヲ申立テサルトキハ判事ハ職權ヲ以テ其無効ノ排斥理由ヲ補足スルコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博奕、富籤又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原因タルコトヲ明言セシトキニ限ル

（栗塚）本條ハ無効ノ排斥理由トアルヲ銷除ノ抗辯トシタシ可決ス

第二節　終身年金權

第一款　終身年金權ノ設定

第八百十四條　終身年金權ハ動產若クハ不動產ナル元本ノ讓渡ノ報



日本學術振興會

此項削除建議

酬トシ又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有償名義ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又終身年金權ハ有償又ハ無償ノ名義ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之ヲ設定スルコトヲ得

又生贈又ハ遺贈ヲ以テ無償名義ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ終身年金權設定ノ方式、授受ノ能力及ヒ處分シ得ヘキ財產ノ部分ニ付テハ無償名義ニ關スル特別規則ニ從フ

（栗塚）此條ニハ末項削除ノ建議アリ個ハ然ルヘキニ付キ採用シタシ（清岡）刪除ノ理由如何（栗塚）發リヲ附シタルニ過キス（元尾崎）本條ハ第一項ト第二項トノ意味異ルヲ認メス（南部）元本ヲ讓與スルト依託スルトノ異アルノミ

第八百十五條　終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利益ノ爲メノ之ヲ設定スルコトヲ得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在リテハ有償名義ノ契約ノ規則ニ從ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在リテハ生贈ノ規則ニ從フト雖トモ生贈ノ方式ニ從フコトヲ要セス

（栗塚）本條第一項設定ノ文字ハ要約トスヘシ可決ス

第八百十六條　終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身ヲ期シ又ハ第三者ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此未ノ場合ニ於テ契約カ有償ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾ヲ必要トス然レトモ此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス

（横村）設立ハ要約トセサルカ（南部）設定モ要約モ異議アラサルモ前條ハ第二項ニ要約者ト云フ文字アレハナリ

第八百十七條　終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得



日本學術振興會

此場合ニ於テハ用益權ニ關スル第百三條ノ規定ヲ適用ス

無異議

第八百十八條　有償名義ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲ノ終身ヲ期セラレタル人カ契約ノ當時ニ於テ已ニ死亡シタルトキハ當事者双方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ

右ノ人カ契約ノ當時ニ於テ已ニ罹レル疾病ノ爲ノ六十日内ニ死亡シタルトキハ其契約ハ當然之ヲ解除ス

（村田）契約ノ當時ト云フハ合意ノ當時ナリヤ（笑作）契約ノ當時ト云フニテ可ナリ（尾崎）合意トシテモ可ナリ

第八百十九條　無償名義ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ不可讓且不可押ノモノト定ムルコトヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二項ヲ前條ノ末項ニ移入ル、ノ建議

養料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ當然不可讓且不可押ノモノナリ

本條ノ規定ハ生贈ノ財産ニ付キ生贈者ノ利益ノ爲ノ留存シタル終身年金權及ヒ支拂時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

（栗塚）不可讓且不可押トアルハ何レモ譲渡スコトヲ得ス且差押フコトヲ得サルトシ末項ハ本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲ノ贈與財産ノ上ニ留存シタル云々トシタシ可決ス

第八百二十條　終身年金權ノ不可讓及ヒ不可押ハ其一事ノミヲ要約シタルトキト雖モ二事共ニ存立ス

（栗塚）本條ハ終身年金權ノ譲渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミ云々トシタシ可決ス

第二款　終身年金權ノ契約ノ効力

第八百二十一條　債務者ハ年金權ノ設定ノ爲ノ終身ヲ期セラレタル

人ノ生存中ハ其年金權ノ年金ヲ支拂フコトヲ要シ且贖罰ヲ爲スコトヲ得ス但其贖罰ニ付キ特別ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

（尾崎）贖罰ハ買戻トスヘシ可決ス（栗塚）契約ハ合意トナルヘシ

第八百二十二條　年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲ス可キトキト雖モ債權者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

然レトモ年金ヲ前拂ス可キトキハ債務者ハ已ニ支拂時期ノ始マリタル全一期分ヲ負擔ス

無異議

第八百二十三條　債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受ルニ足ルヘキ部分ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメ其賣却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ充ルコトヲ得但他ノ債權者ノ競取ヲ拒ムコトヲ得ス

終身年金權ヲ無償名義ニテ設定シ又ハ生贈若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルトキモ亦右ト同一ニ處理ス

（栗塚）競取ト云フ文字ハ參同シテハ如何（南部）參同トスルヲ可トス（元尾崎）競取ハ競ヒ來リテ其物ヲ得取スルヲ云フ（栗塚）競取ハ競參トシタシト雖モ尚ホ他ノ場合ニ於テ決スルコトトシタシ其議ニ決ス

第八百二十四條　終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ支拂ノ時期ニ生存セシコトヲ債權者ヨリ證明セサルトキハ其年金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

生存ノ保證書ハ其人ノ現住地ノ受持公證人又ハ身分取扱人之ヲ交付ス

（栗塚）本條ハ起案者ヨリ第一項ノ債權者ヨリトアル下ニ生存

ノ保證書ヲ以テト云フ字ヲ入レ證明セサルヲ證セサルトシ第二項ノ生存ノト云フ字ハ此トシタシ（筭作）保證書ト云フ字ハ妥當ナリヤ（栗塚）認證書トシテハ如何可決ス

第三款　終身年金權ノ消滅

第八百二十五條　有償名義ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ約束シタル抵保ヲ供セス又ハ供シタル抵保ヲ減少スルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ請求シ且已ニ支拂時期ノ至リタル年金ヲ取得スルノ權利ヲ有ス

生贈又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト同一ノ權利ヲ有ス

右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ確定判決前ニ死亡シタルトキハ之ヲ宣告セス

（栗塚）本條第一項ハ報告委員ニテ約束シタルトアルヲ諾約シタルトシ抵保ヲ擔保トシ契約ノ解除ヲ請求シトアルヲ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得トシ且ツヲ但トシ年金ヲ取得スルノ權利ヲ有ストアルヲ年金ノ何等ノ部分ヲモ返還スルノ責ナシトセリ（松岡）本條ハ原案ノ儘ヲ可トス（栗塚）解除ト云ヘハ舊ニ復スルヲ云フモノナルモ解除ハ已ニ受取リタル部分ヲ返還スルノ責ナシト云フニアリ（清岡）已ニ清取濟ニ屬シタル部分ヲ返還スヘキ所以ナケレハ敢テ明記スルニ及ハス（南部）解除シタル以上ハ舊狀ニ回復セサルヘカラサルニアルモノナレハ此點ハ之ヲ明記シテ以テ其責ナキヲ顯著ナラシムルヲ要ス（横村）支拂時期ノ至リタル年金ヲ取得スル權利アル以上ハ素ニ已ニ受取濟ニ屬シタル部分ハ返還スルノ責ナキコト勿論ナリトス（南部）解除シタル以上ハ最早取得スルト云フヲ得サルヘシ故ニ返還ノ責ナシトシテ以テ支拂時期ニ達シタル部分ヲモ收受セシメサル



日本學術振興會

ヘカラス（筆作）支拂時期ノ至リタルト云フヲ刪除シ已ニ取得シタル年金ノ何等ノ部分云々トシテハ如何（元尾崎）已ニ取得シタルト云ヘハ實物ニ付キ云フモノニシテ權利ヲ得タルト云フ意味ヲ顯ハサス（南部）取得ト云ヘハ權利ト實物トニ付キ云ハルヘシ結局但已ニ取得シタル年金ノ何等ノ部分ヲモ返還スルノ責ナシトス

第八百二十六條　普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ終身年金權ニ之ヲ適用ス

終身年金權ハ此他尙ホ更改、免除、混同、時効及ヒ要約シタル賃囲ニ因リテ消滅ス

然レトモ終身年金權カ第八百十九條及ヒ第八百二十條ニ從ヒテ法律又ハ契約ニ依リテ不可讓及ヒ不可押ノモノナルトキハ其年金權ハ時効ニ權ラス



如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期ノ五ケ年ニシテ時効ニ權ル（栗塚）本條第一項ハ再調査員ニテ免除ノ上ニ合意上ノト云フ字ヲ入レ例ニ從ヒ賃囲ヲ買戻トシ不可讓及ヒ不可押ト云フ文字ハ讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルトスヘシ（渡）普通法ト云フ文字ニハ疑ヒヲ惹起スヘキニアラスヤ（栗塚）普通法ト云ヘハ民法ナリト云フニ疑ヒナシ（松岡）支拂時期ノ五ケ年トアルハ支拂時期後五ケ年ト云フ意トナルヘシ然ルニ商法ニ於テハ支拂時期ト云ハス滿期トシタルニ付キ其例ニ倣ヒタシ（元尾崎）滿期ト云ヘハ假令ハ十ケ年間年金權ノ契約アルトキハ其十ケ年ヲ經過シタル場合ヲ云フニアリ（松岡）年金權ノ滿期ハ毎一ケ年間ヲ云フ十ケ年ノ契約ナルトキ其十ケ年ヲ經過シタルトキハ年金權消滅スヘシ（渡）支拂時期後トスヘシ（村田）滿期後ト云フヲ可トス結局支拂時期後トスルニ可決ス

第八百二十七條　終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ死亡ニ因リテ消滅ス但第八百十八條ノ規定ヲ妨ケス

然レトモ終身ヲ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ帰ス可キ不正ノ原因ニ由リテ死亡シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有價名義ニテ又ハ生贈若クハ遺贈ノ負擔トシテ設定シタリシトキハ其契約又ハ意與ハ之ヲ解除ス且債務者ハ已ニ支拂ヒタル年金ヲ取戻サスシテ其取得シタル財產ヲ返還ス

右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ生贈シ又ハ遺贈シタリシトキハ年金ノ支拂ハ裁判所カ終身ヲ期セラレタル人ノ生命ノ繼續期ト推測スル期間之ヲ繼續セシム

無異議

（第八百二十八條ヨリ第八百七十二條マテ（第三節、陸上保險）ハ商法ニ譲ルニ付キ略ス）

第十七章　消耗貸借及ヒ無期年金權

第一節　消耗貸借

第八百七十三條　消耗貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時間後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スルノ契約ナリ

（筭作）消耗ト云フ文字ハ消費トシ商法ト同一ニノハ如何（南部）商法ヲ消耗トシタシ（元尾崎）消費トスヘシ可決ス

第八百七十四條　當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

又返還ノ場所ヲ定メサリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所有利息ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

（栗塚）有利息ト云フハ利息付トシテハ如何可決ス（筭作）利息付ノ上ニ又ノ字ヲ加ヘタシ（北畠）利息ノ上ニ又ノ字ヲ加ル

ナレハ冒頭又ノ字ヲ刪ルヘシ可決ス

第八百七十五條　借用物ノ返還カ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ不可爲ト爲リタルトキハ借主ハ貸借ヲ爲シタル時日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ價格ヲ賠償ス

（栗塚）不可爲ト云フ字ハ不能トシ不可抗ノ力ト云フハ不可抗力トスヘシ（笑作）本條ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ借主ハ云々トシテハ如何可決ス

第八百七十六條　貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ有利息ニシテ且借主カ善意ナリシトキハ貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス

然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有効ナリ

第一　借主カ善意ニテ借用物ヲ消耗シタルトキ

第二　借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトキ



第二項及ヒ第三項ヲ削除シ「其貸借カ有利息ナルトキハ第何條（賃貸借ノ修正案ニ詳ナリ）ノ規定ニ從フ」トノ一キ

第三　眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

本條ハ例ニ從ヒ消耗トアルヲ消費トセリ

第八百七十七條　貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル隱潛ノ瑕疵アリテ其瑕疵カ身体又ハ財産ニ損害ヲ加フ可キ性質ニシテ且實際借主ニ損害ヲ加ヘタルトキハ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ自己ニ詭譎アリ又ハ加害ノ意思アリタルニ非サレハ其損害ノ責ニ任セス

其貸借カ有利息ナルトキハ貸主ノ了知セサリシ隱潛ノ瑕疵ト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス

此他賣買廢却訴權ニ關スル第七百四十一條乃至第七百四十八條ノ規定ハ之ヲ消耗貸借ニ適用スルコトヲ得

（栗塚）本條ハ例ニ從ヒ隱潛ノトアルヲ隱レタルトシ詭譎ハ詐

欺トシ有利息ハ利息付トシ消耗ハ消費トセリ可決ス（村田）隱レタル瑕疵ハ第七百四十一條ニ微ヒ不表見ノ瑕疵トシタシ（横村）隱レタル瑕疵ト云フヲ可トス可決ス

第八百七十八條　第四百八十四條乃至第四百八十七條ハ正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消耗貸借ニ之ヲ適用ス

然レトモ貸主カ第四百八十六條ノ許セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ又ハ是等ノ正貨ノ一ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ要約スルニハ仝性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

無異議

第八百七十九條　貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

此條ノ說明ニハ主ヲ消耗案ニ借ル貸ス消耗ト無利息ノ貸借ハ恩恵ノ性質ニ於テ消耗ヲ貸ト同一ノ目的ヲ有スル物ニ限リ使用貸借ニ及ヒ特定ノ種類ノ物ニ限リ消耗貸借ニ及ヒ特定ノ物ニ限リ使用貸借ニ及ヒ或ハ拂戻ノ約束ヲ爲スコトヲ得ル故ニ消耗貸借ト使用貸借トノ差アル章ヲ設ケタル所以ナリ

無異議

第八百八十條　金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ辨濟ヲ約束スルコトヲ得

無異議

第八百八十一條　利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

借主ヨリ利息ヲ辨濟スヘキノ契約アリテ其額ノ定ノ無キトキハ其利息ハ法律ノ制限ニ從フ

諸約セサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨濟シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ス

（梁塚）本條第一項契約ハ合意トシ第二項諸約セサルトアルヲ要約セラレサルトスヘシ（松岡）其利息ハ法律ノ制限トアルヲ可トサヽル各別ノ貸借トアル故ニ差チ約スル得ス使用貸借ノ消耗貸借ニ適用ス

其利息ハ法律上ノ制トスヘシ可決ス

第八百八十二條　契約上ノ利息ハ法律ヲ以テ特ニ制禁スル場合ノ外ハ法律ノ制限ヲ超ユルコトヲ得

法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ爲シタル辨濟ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得

債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ノ認定其他ノ方法ヲ以テ不正ノ利息ノ全部又ハ一分ヲ隱蔽シタルトキハ債務者ハ其不正ノ利息ノ何等ノ部分ヲモ辨濟スルコトヲ要セス若シ之ヲ辨濟シタルトキハ其全部ヲ取戻スコトヲ得

（元尾崎）本條第一項ハ合意ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルコトヲ得トシタシ（松岡）合意上ノ利息ハ法律上ノ制限ヲ超越スルヲ得スト云フ義ナリ（栗塚）合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルコトヲ得ト雖トモ法律上ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス（笑作）制限ヲ超ユルト云フハ穩當ヲ得ス（尾崎）第一項ハ報告委員ニテ修正ヲ乞ヒタシ其議ニ決ス（松岡）第二項又ハ之ヲ取戻スコトヲ得トアルハ删除シタシ（南部）取戻スコトヲ得ト云フハ規存セシノサレハ利息ヲ先占スルニ至ルヘシ（元尾崎）任意上ニテ支拂フタル利息ヲ取戻スニ至ルハ苛酷ナリトス（松岡）此場合ハ殆ント毒物ヲ嘗ムルナラハ尙ホ器皿ニモ及フヘシト云フカ如キ甚シキモノト云フヘシ（栗塚）利息制限法ノ存在スル以上ハ此點ノ規定ヲ必要トスヘシ（松岡）債權者既ニ收得シタルモノヲ數年間ヲ經ルモ期滿免除ニ至ラサル間ハ之ヲ取戻スコトヲ得ラル、ト云フハ世ノ不安固ヲ生スルモノト云フヘシ（横村）本條ハ餘ニ起按者ニ質問スト云フニアリ（栗塚）起按者ニ質問スヘキ論據ニ乏シシ之ヲ質問スレハ必ラスヤ不當ノ富ヲ得

取シタル者ナレハ法律上ニ許スヘカラサルモノト云ハン（松岡）法律ハ任意ニ合意スルヲ許シタルモ此制限ヲ超ユヘカラスト云フ範囲ヲ附シタリト云フニ過キス範囲ト云フニ廣狹ノ差アルモノニシテ原案ハ廣範囲ニ過クルモノト云フヘシ（元尾崎）賭博上ニ得タル金圓ハ訴權ナキモ既ニ交付シタル金圓ハ之ヲ取戻スヲ得サルニアラスヤ（南部）賭博上ノ授受ハ無元因ナレハ之ヲ取戻スヘキ理由ヲモアラサルナリ結局原按ニ決ス（松岡）第三項認定ヲ追認トスルハ不可ナリ（南部）認諾トシテハ如何（栗塚）諾約トスヘシ（清岡）認メシメト云フヲ可トス（笑作）認メシメ又ハ其他ノ方法トスヘシ可決ス

第八百八十三條　貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ反對ノ證據アルマテ其利息ヲ受取リ又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク

無異議

第八百八十四條　十个年ヲ超ユル期間ヲ以テ有利息ノ貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ契約アルモ十个年後ハ常ニ辨濟ヲ爲スノ權能ヲ有ス

然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ償却スルトキハ其取越辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

無異議

第八百八十五條　第八百八十一條乃至第八百八十四條ノ規定ハ消耗貸借ヨリ生スル義務ニ非サル金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ契約上、法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

無異議

第二節　無期年金權ノ契約

第八百八十六條　有利息ノ貸主ハ元本要求ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ

ヲ得此ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ

此拋棄ハ明白ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

（栗塚）本條ハ第一項權利ヲ拋棄スルトアルヲ權利ヲ自ラ禁止スルトシタシ（松岡）自ラ禁止スルト云ヘハ債務者ノ意思如何ニ拘ハラス債權者ハ元本ヲ要求セスシテ無期年金權ヲ設定スルヲ得トナルモ債務者其方法ヲ迷惑トシテ之ヲ受ケサルトキハ如何債務者ハ無期年金權ト心得サルヘカラサルニ至テハ不都合ノ甚シキモノト云フヘシ（栗塚）債權者ハ之ヲ無期年金權トスルヲ得ヘシ（奠作）本條ハ法理上聞然スヘキナキモ定義上ニ欠點ナキニアラサルヘシ（清岡）債權者ト債務者トノ意思牴觸スル場合アルヘシ（元尾崎）牴觸スルコトナシ（栗塚）貸主カ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルトキハ此ヲ無期年金權ノ設定ト謂フトシテハ如何可決ス（栗塚）第二項拋棄ハ禁止トシ明白ハ明示トスヘシ可決ス

第八百八十七條　無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反對ノ契約アルモ常ニ其受取タル元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得然レトモ借主ハ十个年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲サヽルヲ約束スルコトヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十个年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヲ超ユルトキハ十个年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ契約アラサルトキハ全部タルコトヲ要ス

債務者ハ六个月前ニ辨濟ヲ爲スノ意思ヲ債權者ニ豫告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期限ヲ定ノタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定ノタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲サヽルトキハ其損害ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ強要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）本條ハ末項其損害ノトアルヲ其損害賠償ノトスヘシ可決ス（松岡）無期年金ノ債務ヲ負擔スルト云フハ不明了ナリ（栗塚）無期年金權ノ借主ノ債務ノ負擔トシテハ如何（南部）原案ノ儘ヲ可トス可決ス

第八百八十八條　債務者ハ第四百二十五條ニ揭ケタル初ノ三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付遲滯ヲ受ケタル後引續キ二个年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク

此末ノ場合ニ於テ第四百二十六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠期間及ヒ分割辨濟ヲ許與スル裁判所ノ權ヲ妨ケス

（栗塚）本條第一項第四百二十五條ニ揭ケタル初ノ三號トアルハ第四百二十五條第一號乃至第三號トスヘシ可決ス（栗塚）第二項分割辨濟ハ割濟トシタシ（元尾崎）原案ノ儘ヲ可トス可決ス

第八百八十九條　前二條ノ規定ハ不動產讓渡ノ代金若クハ條件トシテ設定シ又ハ無償名義ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス

右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本若シ評定セサリシトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計定シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ元本ノ辨濟ハ特別ノ契約アルニ非サレハ前十个年間ノ其日用品ノ平均代價ヲ年金ノ基礎ト爲シテ之ヲ爲ス

（栗塚）第一項計定ハ計算トシタシ可決ス

## 第十八章　使用貸借

### 第一節　使用貸借ノ性質

第八百九十條　使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之



日本學術振興會

ニ動産物又ハ不動産物ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スルノ契約ナリ

此貸借ハ本來無償ナリ

（松岡）第二項ノ此貸借ハ本來無償ナリト云フハ初項ニ挿入スルヲ得サルヤ（南部）原案可ナリ可決ス

第八百九十一條　借主ハ使用ノ物權ヲ取得セス單ニ貸主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セス但其相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルコトヲ證明スルトキハ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫ノ期間ヲ受クルコトヲ妨ケス

（元尾崎）使用貸借ハ人權ナリヤ（松岡）使用貸借ハ人權ナリ

賃貸借ハ物權ナリ

第二節　使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第八百九十二條　借主ハ借用物ノ性質又ハ契約ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ且契約期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因テ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

（栗塚）且契約ノ期間ト云フハ且貸借期間トシタシ（松岡）契約ノ期間ニヲ可ナリ（村田）貸借期間トスヘシ可決ス

第八百九十三條　借主ハ自己ノ物ヲ用ヒテ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルコトヲ得ヘキトキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危險ヲ受クルニ際シ自己ノ物ノミヲ救護シタルトキモ亦意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス

無異議

第八百九十四條　借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ貸主ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

無異議

第八百九十五條　借主ハ約束セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還ス其時期前ト雖モ約束セシ使用ヲ終リタルトキハ亦同シ尙ホ第八百九十八條第二項ノ規定ニ從フコトヲ要ス

返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用カ繼續ス可キトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

（栗塚）時期前ト雖トモ約束セシトアルヲ時期前ト雖許與セシトシテハ如何（樹村）許與セシハ許セシトシテハ如何可決ス（箕作）借用物ヲ返還ストアルハ借用物ヲ返還スルコトヲ要ストシタシ（栗塚）可ナリ第八百九十八條第二項ノ規定ニ從フ事ヲ要ストアルハ第八百九十八條第二項ノ規定ヲ妨ケストスヘシ可決ス（栗塚）第二項繼續スヘキトキハト云ヘルハ繼續シ得ヘキトシ時期ヲ定ムトアルヲ期間ヲ定ムルコトヲ得トシタシ（尾崎）繼續スヘキトキハト云ヘルハ際限ナキトキハトシテハ如何（濟岡）等閑ニ附シ置ケハ期限ノ到着セサルヲ云フ（松岡）繼續スヘキモノナルトキハトスヘシ可決ス

第八百九十六條　借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルトキト雖トモ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付キ合式ニ故障ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

無異議

第八百九十七條　數人連合シテ仝時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自連帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス



日本學術振興會

第二項削除
建議（理由）ハ義務ノ通則ヲ以テ定ムルヲ此種ノ奇怪ナル規則ヲ掲クルノ必要ナシ

（栗塚）上ノ義務ト云フ字ハ前記ノ義務トシタシ可決ス

第八百九十八條　貸主又ハ其相續人ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ約束シタル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル要用ノ生シタルトキハ貸主又ハ其相續人ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムルコトヲ得

（栗塚）本條約束ノ文字ハ許シトスヘシ可決ス

第八百九十九條　貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ辨償スルノ責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メニ借主ノ受ケタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス但其瑕疵ハ隱潛ニシテ借主之ヲ了知セス貸主之ヲ了知シ且借主ニ害ヲ加フルノ意思アリタルトキニ限ル

（村田）本條ノ趣旨ニシテト云フハ不表見ニシテトスヘシ（清



岡）但シ隱レタル瑕疵ニシテトシタシ（栗塚）不表見ニシテト云フヲ可トス（渡）但其瑕疵ハ隱レタルモノニシテトシタシ可決ス

第九百條　借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ルマテ借用物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

（松岡）本條ハ削除シタシ（村田）否ナリ（元尾崎）削除スルニ及ハス

## 第十九章　寄託及爭論寄託

### 第一節　寄託

第九百一條　寄託ハ一人カ動產物ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ監守シ要求次第直チニ原物ヲ返還スルノ契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノアリ急迫ノモノアリ

（栗塚）爭論寄託トアルハ管守トシ「一人カ」ノ下「他ノ一人ニ」ト云フ字ヲ挿入スヘシ（松岡）他ノ一人ニト云フ字ハ用ナシ

第一款　任意寄託

第九百二條　任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日、場所及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

無異議

第九百三條　寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ監守及ヒ保存ニ付キ利益ヲ有スル人又ハ其代理人之ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代理人之ヲ爲スコトヲ得

（栗塚）法律上ノ代理人トアルハ法律上代人トナルヘシ

第九百四條　寄託ハ契約ヲ爲スノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

然レトモ無能力者ハ仍ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ノ爲ノ公訴ヲ妨ケス

（元尾崎）小兒ヨリ物品ヲ受託スルヲ得サルヤ（栗塚）受託者ニ能力アルヲ要スト云ヘリ

第九百五條　受寄者ハ受寄物ノ監守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求ノテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受寄者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スノ責ニ任ス但此末ノ場合於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第八百九十三條ノ規定ヲ適用ス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ曩ニ刪除サレタル舊第九百六條第

第九百六條第二項ハ議場ニテ削除セラレシナシ

二項ヲ回存セントスルニアリ（寺島）人事慌急ノ際財物ヲ救護セントスルニ受託物ヲ救護シタル爲ノ自己ノ所有品ヲ損滅シタルトキハ其賠償ヲ要求スルヲ得セシノサルヘカラスト云フニアリ何トナレハ人情自己ノ物品ヲ救護セントスルニ厚キモノニシテ受託物ヲ救護セントスルニハ薄キモノナレハ賠償ヲ得セシノサルトキハ受託物ヲ救護スルモノ殆稀少ナルノ結果ヲ見ルニ至ルヘケレハナリ（松岡）前決議ノ旨ニ附スヘシ

（第九百六條）（此條第一ハ前條ノ末項ト爲ル）

第九百七條　受寄物返還ノ遲滯ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

無異議

第九百八條　寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ秘シタルトキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルコトヲ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得ス若シ之ヲ漏泄シタル爲ノ損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

（松岡）探求スルコトヲ得ストアルハ求ムルコトヲ得ストシタシ

（南部）探求スルコトヲ得ストシテ可ナリ

第九百九條　受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消耗スルコトヲ得ス但此カ爲ノ寄託者ノ明示又ハ默示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス

（栗塚）末項ハ此許諾ハ寄託ヲ使用貸借ニ變体スルニ足ラストシテハ如何（松岡）此儘ニテ不都合ナシ

第九百十條　受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物又ハ果實及ヒ產出物ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還

スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル替償又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消耗シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滯ニ付セラルヽコト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ノ爲ノ公訴ヲ妨ケス

（栗塚）第一項「果實及ヒ產出物ヲ」ヲ「之ヲ」トシ第二項替償ヲ償金トスヘシ可決ス

第九百十一條　受寄者ノ相續人カ受寄物ナルコトヲ知ラスシテ其物ヲ消耗シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其相續人ハ此ニ因テ得タル利益ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責ニ任ス

右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

無異議

第九百十二條　寄託物ノ返還ハ寄託者若クハ其相續人又ハ其法律上若クハ契約上ノ代人ニ之ヲ爲スコトヲユルス

無異議

第九百十三條　返還ニ付キ場所ヲ定メサリシトキハ受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ詭譎ナキトキハ受寄物ノ現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス

本條ハ例ニ從ヒ詭譎ト云フ文字ヲ詐欺トセリ

第九百十四條　寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一　受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルヲ證明スルコトヲ得ルトキ

第二　受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

第三　受寄者カ合式ノ返還差止メノ告知ヲ受ケタルトキ



日本學術振興會

第四　受寄者カ受寄物ノ盗品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知リタルトキ

此場合於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立會ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

（栗塚）本條第一證明トアルヲ例ニ從ヒ證スルトセリ第三合式ノ返還差止トアルハ渡方差押ノ合式ノトシタシ合式ノ文字ハ告知書ニ冠セシムルヲ至當ナリトス可決ス（清岡）第四指定セル相應ノ期間ト云ヘル相應ノ文字アレハ指定セルト云フニ及ハス（尾崎）相應ノト云フ文字ヲ削除シテハ如何（北畠）指定セル相應ト云フハ行文妥當ナラス（委員長）原案ノ儘ニシテ可ナリ可決ス

第九百十五條　寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ受ケタル損害トヲ賠償スルコトヲ要ス

右賠償ノ皆濟ヲ受クルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得

無異議

第二款　急迫寄託及ヒ旅店寄託

第九百十六條　寄託者カ水災、洪水、難船、地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ已ムヲ得ス寄託ヲ爲シタルトキハ之ヲ急迫ノ寄託ト云フ

急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ情況ヨリ生スル事實上ノ推定ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ得

此他急迫ノ寄託ハ任意ノ寄託ノ規則ニ從フ

（栗塚）本條第三項ハ此他急迫ノ寄託ハ刑事上ノ責任ノ外任意寄託ノ規則ニ從フトシタシ刑ノ加重ヲ妨ケスト云フ如キハ刑法ノ範圍内ニ屬スル者ニシテ民法ニ記載スルニ及ハサレハ暗ニ刑事上ノ責任アル旨ヲ示スヘキヲ要ス（松岡）刑事上ノ責任ト云フヲ明記スルハ不可ナリ（清岡）原案ノ儘ニスヘシ可決ス（栗塚）第二項事實上ノトアル「上」ノ字ヲ刪除スヘシ可決ス

第九百十七條　旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ携帶シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄物ト看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業者モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本條ノ受寄者ハ有價名義ニ於ケル通常ノ義務ヲ負擔ス

（横村）舊案ニ已ムヲ得サル寄託トアルヲ急迫ノ寄託トシタルハ如何（栗塚）漢文家ノ眼光ニハ蓋シ充當ナラサルモノト思惟シタルナラン（波）止ムヲ得サルト云ヨリハ急迫ト云フヲ可トス（委員長）已ムヲ得サルト云フノミニテハ充分ノ意味ヲ盡サヽルモノアルヘケレハ急迫トスルヲ可トス可決ス（元尾崎）止宿セシムルト云ヘル一語ハ主人ハノ語意ヲ受ケサルニ依リ止宿セルトスヘシ（南部）主人ハノ一語ハ止宿セシムルト看做ト二點ニ係レリ

## 第二節　管守

第九百十八條　管守トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託シテ保護セシムルヲ云フ

管守ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

管守ニハ契約上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

（栗塚）第一項ハ第三者ニ寄託シテ保護セシムルヲ云フトアルヲ第三者ニ寄託スルヲモ云フトシタシ寄託ト云ヘハ保護ノ意味ヲ



日本學術振興會

含蓄スレハナリ可決ス

第九百十九條　契約上ノ管守ハ其管守ニ付テモ管守人ノ選定ニ付テモ當事者ノ承諾アルコトヲ要ス

裁判上ノ管守人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ管守人ニ選任スルコトヲ得

無異議

第九百二十條　契約上ト裁判上トヲ問ハス管守人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ管守人ハ善良ナル管理者ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フルノ責ニ任ス

（栗塚）保管物ト云フ文字ハ管守物トシタシ可決ス

第九百二十一條　裁判上ノ管守人ハ（第百二十六條）ニ從ヒテ管守物ヲ賃貸スルコトヲ得然レトモ契約上ノ管守人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受ケタルニ非サレハ賃貸スルコトヲ得ス

裁判上又ハ契約上ノ管守人ハ其占有ヲ保存シ又ハ之ヲ回收スル爲ノ占有訴權ヲ行フコトヲ得

管守人ノ占有ハ爭訟ニ於テ確定ニ勝ヲ得タル當事者ヲ利ス

（箕作）括弧ハ必要ナカルヘシ（南部）蓋シ誤寫ナルヘシ（村田）保存ハ保持スヘシ可決ス

第九百二十二條　管守ニ付シタル物ハ勝ヲ得タル當事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

然レトモ管守人ハ自己ノ責任ヲ免カルヽ爲ノ當事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ要求スルコトヲ得

（栗塚）本條第二項ハ然レトモ管守人ハト云フ下ニ最初爭訟ノ終ラサル前ト云文字アリシヲ修正シテ判決ノ確定前ト云フ文字ヲ挿入シテハ如何（元尾崎）判決ノ確定前ト云フハ如何ノ必要



日本學術振興會

アルヤ（栗塚）管守人ハ保護注意ヲ要スル手數アレハ其煩累ヲ避ケント欲シテナリ（委員長）確定前ト云ヘハ上訴ノトキヲモ包含スルカ（栗塚）初裁判ヲ經タルモ上訴中未タ確定セサルナリ（清岡）確定前ト云ヘハ必ス初裁判ヲ經タル以上ニ於テス初裁判判決前ニハ之ヲ爲スコトヲ得サルヘシ（尾崎）初裁判判決前ニ其責任ヲ免レントスルモノアラサルヘケレハ判決ノ確定前ト云フ字ヲ挿入スルハ可ナリ可決ス

第九百二十三條　右ノ外契約上及裁判上ノ管守ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ

無異議

第九百二十四條　差押物ニ於ケル裁判上ノ管守及ヒ債務者カ辨濟ニ提供シテ債權者ノ受取ルコトヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

無異議

## 第二十章　代理

### 第一節　代理ノ性質

第九百二十五條　代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フコトヲ他ノ一方ニ委任スルノ契約ナリ

代理人カ其名ヲ以テ事ヲ行フ可キモ委任者ノ利益ノ爲メニスルトキハ其契約ハ仲買契約ナリ

仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

（栗塚）本條第二項ハ代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フトキハ其契約ハ仲買契約ナリトシタシ（元尾崎）民法ノ代理法ハ代理人ノ名ヲ以テスルモノナリト雖トモ仲買契約ハ仲買人自己ノ名ヲ以テスル者ナリ（松岡）斯ク修正スルノ必要アリヤ（栗塚）然リ可決ス



日本學術振興會

第九百二十六條　代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ承諾スルコトヲ得

（栗塚）承諾ノ文字ハ受諾トシタシ可決ス

第九百二十七條　代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ默示ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

（元尾崎）代理ハ無償ナリト云フハ代理ハ本來無償ナリト云ヘサルハ如何（栗塚）代理ハ無償ナルヘキモ往々有償ノ場合アレハ本來ト云フ得ス

第九百二十八條　代理ニハ總般ノモノ有リ特定ノモノ有リ

總般代理則チ爲ス可キ行爲ノ別段ノ定メ無キ代理ハ委任者ノ資產ノ管理行爲ノミヲ包含ス

代理カ或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルトキハ其代理ハ特定ナリ

（栗塚）本條第一項ハ總般トアルヲ總理トシ特定ノ文字ヲ部理トシ第二項ハ總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ別段ノ定メナキ代理ニシテ委任者ノ云々トシ第三項特定ノ文字ハ部理トシタシ可決ス

第九百二十九條　凡ソ代理ハ總般ナルト特定ナルトヲ問ハス其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ヲモ暗ニ包含ス

然レトモ元本ヲ諾約スルノ委任ハ其辨濟ヲ爲スノ委任ヲ包含セス」元本ヲ要約スルノ委任ハ其辨濟ヲ受クルノ委任ヲ包含セス

訴訟ヲ爲スノ委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲スノ委任ヲ包含セス

和解ヲ爲スノ委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ爭論ヲ裁決セシムルノ委任ヲ包含セス

仲裁人ヲ選任スルノ委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲシテ其爭論ヲ裁決セシムルノ委任ヲ包含セス



日本學術振興會

（栗塚）元本ノ文字ハ元債トシタシ（南部）元本ト云フヲ可ト
ス（松岡）貸方借方ト云フ義ナルヘシ（槇村）元本ヲ借リ元本
ヲ貸スト云フ義ニ非ラスヤ（箕作）元本ヲ諾約スルトシテ不都
合ナシ（栗塚）諾約ト云ヘハ義務者トナリ要約ト云ヘハ權利者
トナルヘシ（松岡）訴訟ヲ爲スノ委任ト云ヘルハ訴訟法ニモ記
載アリト雖トモ仲裁人ノ選擧ニハ關發セシニ付キ之ヲ記入シタ
シ可決ス（栗塚）第一項事柄ヲモトアルヲ事柄ヲトスヘシ可決
ス

第九百三十條　代理ハ無能力者ニモ有効ニ之ヲ委任スルコトヲ得然
レトモ其代理人ハ委任者ニ對シテハ無能力者ノ受ケタル制限ノ責
任ノミヲ負擔ス

（栗塚）無能力者ノ受ケタル制限ノ責任ノミヲ負擔ストアルヲ
無能力ノ制限アル責任ノミヲ負擔ストシタシ（箕作）無能力者



ノ責任ノミヲ負擔ストスレハ制限アルト云フ意義ヲ包含スヘシ
（委員長）制限ノ文字ヲ除去スルトキハ無能力者ニハ元來制限
アル意義ヲ表彰スルヲ得ス（南部）無能力者ノ制限責任ノミヲ
負擔ストシタシ（箕作）制限責任ト云フハ不可ナリ結局無能力
者ノ制限アル責任ノミヲ負擔ストスヘキニ決ス

第九百三十一條　代理人ハ其管理行爲ノ全部又ハ一部ニ付キ他人ヲ
シテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得但此ヲ明示ニテ禁止セサルトキ
又ハ事件ノ性質ニ因リテ專ラ代理人ノミニ委任シタリト看做ス可
カラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自己ノ管理ニ於ケル如
ク其下代人ノ管理ノ責ニ任ス

委任者カ下代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其選擇實行ノ不得爲
ノ場合ニ於テモ他人ヲ選任スルコトヲ得ス代理人カ其選擇ニ從ヒ
タル場合ニ於テハ代理人ハ其下代人ノ無能又ハ不誠實ニ付キ委任

者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ下代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ任セス

委任者ノ禁止シタルニ拘ハラス下代人ヲ選任シ又ハ其許諾セサル人ヲ選擇シタル場合ニ於テハ代理人ハ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責ニ任ス但此ノ下代人ノ選任ヲ爲サヽレハ其損害ノ生セサル可キトキニ限ル

（栗塚）本條第二項不得爲トアル文字ハ不能ノ誤ナリ（松岡）

其選擇ニ從フコト能ハサルトシテハ如何可決ス（松岡）下代人ト云フハ舊案ニ復代人トアリ故ニ下代人ハ復代人トシタシ可決ス（元尾崎）復代人ヲ委任スルト云フハ允當ニアラス（南部）

復代人ヲ許サヽレハ疾病事故アル際ニ差支アルヘシ（清岡）復代人ヲ禁スルニ及ハサルモ正面上之ヲ許シ置クハ不可ナリ（栗塚）復代人ヲ任スルト云フハ代理人ノ利益ニアラス依頼者卽チ



本人ノ利益タルヘシ（元尾崎）復代理人ヲ任スルヲ得セシムルトキハ契約上明記アラサルトキハ復代人ヲ任セシムルヘカラス

結局原案攻撃ハ成立セス

第九百三十二條　前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者ハ下代人ニ對シ其管理ニ關スル訴權ヲ直接ニ行フコトヲ得又之ニ對シ同一ノ名義ニテ直接ニ責任ヲ負擔ス

同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理人ノ名ヲ以テスル間接訴權トノ間ニ選擇權ヲ有ス然レトモ直接訴權ヲ行フタルトキハ其下代人ノ選任ヲ許諾シタルモノト看做ス

（栗塚）許諾ト云フ文字ハ認諾トシタシ可決ス

第二節　代理人ノ義務

第九百三十三條　代理カ第四節ニ列記シタル原因ノ一ニ由リテ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且其明示ナキモ自己ノ了知



日本學術振興會

シタル委任者ノ意思ヲ斟酌シテ受任事件ヲ成就スルノ責ニ任ス此レニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス

全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナルニ非サレハ代理人ハ一部ノ履行ヲ爲スノ責ナク且之ヲ爲スコトヲ得ス

（松岡）一部ノ履行トアルハ一分ノ履行トスヘシ（南部）然リ

（筆作）明示ナキモノト云文字ハ意思ト云フ文字ヲ指シタルモノナレハ且其ト云フ冠字アルハ却テ不明ニ屬セリ

（松岡）「其」ヲ刪除スヘシ可決ス

第五百三十四條　指定ノ代價ニテ物ヲ買入ル、ノ委任ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入ノ承諾ヲ委任者ニ要求スルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代價ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得



物ヲ賣却スルノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルトキハ代理人ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ承諾セシムルコトヲ得

（松岡）本條ハ最ニ起案者ニ質問中ニテ未決ノ趣キナリ如何（栗塚）起案者ノ答案ハ次會ニ印刷ノ上報告スヘシ

第九百三十五條　代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルコトニ付テハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スノ責ニ任ス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ審判スシタルトキ

第一　代理人カ無償ニテ代理ヲ爲ストキ

第二　代理人カ自ラ求ノテ代理ヲ爲シタルニ非サルトキ

第三　委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタルトキ

第四　代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫期セサ

日本學術振興會

リシ利益ヲ得セシメタルトキ

（栗塚）委任事件ヲ成就セシムルト云フハ文章ヲ爲サス（元尾崎）委任事件ヲ成就セシムルト云フニテ可ナリ（栗塚）「セシムル」ト云フ調ハ上ニ「ヲシテ」ノ調ナクンハ文章ノ格ヲ失ス（槇村）原案ノ儘ニテ可ナリ（栗塚）「セシム」トアルハ「セシムル」トシテハ如何可決ス（元尾崎）較ヤト云フ字ハ允當ナリヤ（南部）允當ナリトス（清岡）寛大ニ之ヲ審判スト云フハ允當ニアラスヤ（栗塚）見積較ヤ寛大ナリノ義ナリ（南部）審判スト云ヘルハ査定ストシテハ如何可決ス

第九百三十六條　代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ證據書類ヲ添ヘテ其計算ヲ爲スノ責ニ任ス其終了前ト雖トモ委任者ノ之ヲ求メタルトキハ亦同シ

無異議

第九百三十七條　代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ關シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有價物ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要ス又委任者カ正當ニ受取コトヲ得ス又タハ代理人ニ受取コトヲ許サヽリシ金額若クハ有價物ト雖トモ亦之ヲ返還スルコトヲ要ス然レトモ次節ニ從ヒ委任者ヨリ受取ル可キ金額ヲ扣除ス

代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ怠リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ滅失セシメタル金額若クハ有價物ノ價額ヲ前數條ニ依リ賠償スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス

（松岡）委任者ニ返還スルト云ヘルモ返還ノ文字ハ受取リタル者ニ返還スル如キ意味ニシテ委任者ニ返還スルノ義ト云フヲ悟了スル能ハス（元尾崎）返還ト云フハ委任者ニ返還スヘキ意味タルニ惑イナシ（委員長）亦之ヲ返還スルコトヲ要スト云フハ何故ニ返還スルノ場合ニ至リタルヤ疑ヒアリ（栗塚）之ヲ受取



日本學術振興會

タルトキハ亦同シトスヘシ可決ス（筭作）返還ノ文字ハ允當ナリヤ（南部）委任者ノ有ナルニ付キ委任者ニ返還スルモノトナルヘシ（松岡）引渡スト云フ語ニアラスヤ（南部）引渡スト云フニテハ意味甚タ薄カルヘシ（北島）復還トシテハ如何結局原案ノ通リ返還ニ可決ス

第九百三十八條　委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ利益ニ用ヒタル代理人ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ負擔ス但一層大ナル損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

計算殘餘ノ金額ニ付テハ代理人ハ其遲滯ニ付セラレタル日ヨリ利息ヲ負擔ス

（清岡）「一層大ナル」ノ文字ハ削除スヘシ（南部）一層大ナルト云フ字ヲ削除スルニ止ムルハ不可ナリ（栗塚）其他ト云フ字ヲ增補シ損害ヲ生セシメタルトキハト云ヘルヲ損害アルトキハトスヘシ可決ス

第九百三十九條　一箇ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルトキハ唯一ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルト各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルトヲ問ハス各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノミ其責ニ任シ連帶ヲ約束シタルトキ又ハ過失ノ連合ナルトキニ非サレハ其間ニ連帶ヲ成サス

無異議

第九百四十條　代理人カ委任者ノ爲ノ其名ヲ以テシテ第三者トノ間ニ成リタル行爲ノ履行ニ付テハ代理人ハ其第三者ニ對シテ責ニ任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第三者ニ對シ己レノ有セサル權限ヲ有スルモノヽ如クシタルトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）其名ヲ以テシトアルハ其名ヲ以テトシ第三者トノ間ニ成リタルトアルヲ第三者ト爲シタルトシタシ可決ス（栗塚）「



日本學術振興會

如ク」ノ下「示」ノ字ヲ挿入スヘシ個ハ必竟誤脱シタルカ故ナリ

第三節　委任者ノ義務

第九百四十一條　委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス

第一　代理人カ代理ノ履行ノ爲ノ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ辨償及ヒ其支出シタル日以來ノ法律上ノ利息ノ辨償

第二　約束シタル謝金ノ辨濟

第三　代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ謝金ヲ約束スルノ理由ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四　代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ免除又ハ其賠償

（栗塚）本條第四義務ノ免除ト云ヘルハ義務ノ解説トスヘキモ解説ノ字ハ穩當ナラサルニ付免責トシタシ可決ス

（栗塚）第三約束ノ文字ハ諾約トシ第二約束ノ文字ハ合意トスヘシ可決ス

第九百四十二條　代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スコトヲ約束セサルトキハ其責ニ任セス然レトモ委任者ヨリ必要ナル費金ヲ供スルコトヲ拒絶シ又ハ遲延セシコトノ證據ナキニ於テハ支出ヲ約束セサル爲ノ代理ノ履行ヲ遲延スルコトヲ得ス

（栗塚）必要ナル費金ノ文字ハ起案者ヨリ必要ナル方法ト改正シ來レリト雖トモ矢張費金トシテハ如何（清岡）費本トシテハ如何（元尾崎）費金ト云フハ金錢ノミニモ限ラサルヘケレハ費金トスルハ允當ニアラス（南部）費金ハ前條第一ノ場合ヲ指シタルモノナルヘケレハ費金ニテ可ナリ

第九百四十三條　謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレハ委任者之ヲ負擔セス但一分ツヽ辨濟スヘキコトヲ約束シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ歸セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應シテ委任者之ヲ負擔ス

（栗塚）本條第一項約束ノ文字ハ要約トスヘシ（清岡）諾約トシタシ（南部）要約ヲ可トス（松岡）一分ツヽ辨濟ス可キコトヲ約束スルトキハ辨濟者ハ義務ヲ有スル者トナルヘケレハ諾約ト云ハサルヘカラス（元尾崎）本條ハ約束ト云フニテ差支ヲ見ス原案ニ可決ス

第九百四十四條　委任者カ義務ヲ辨濟スルニ至ルマテ代理人ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レルノ原因タル物ノ上ニ留置權ヲ有ス

（南部）債權者ト爲レルノトアル「ノ」ハ刪除スヘシ可決ス

第九百四十五條　數人カ唯一ノ證書又ハ各別ノ證書ヲ以テ共同事件ノ爲ノ代理ヲ委任シタルトキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ上ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）上ノ義務ト云ヘルハ前記ノ義務トシタシ可決ス

第九百四十六條　委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシ第三者ニ對シ負擔シタル義務ノ責ニ任ス

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シタル事柄ニ付テモ亦其責ニ任ス

第一　委任者カ明示又ハ默示ニテ代理人ノ行爲ヲ認諾シタルトキ

第二　委任者カ代理人ノ行爲ニ因リテ利益ヲ得タルトキ但其利益ノ限度ニ從フ



日本學術振興會

第三　第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル正當ノ理由ヲ有シタルトキ

（松岡）本條第三「信スル」トアルハ「信スヘキ」トシテハ如何原案ニ可決ス

第四節　代理ノ終了

第九百四十七條　代理ノ履行又ハ其履行ノ不得爲及ヒ代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス

第一　委任者ノ爲シタル廢罷

第二　代理人ノ爲シタル拋棄

第三　委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若クハ禁治産

第四　委任者又ハ代理人カ代理ヲ委任シ又ハ之ヲ承諾セシ原因タル資格ノ消滅



（栗塚）不得爲ト云フハ不能トシ消滅ト云フハ終了トスヘシ（筭作）消滅ハ絶止トスヘシ可決ス（筭作）承諾ハ受諾トスヘキヤ（栗塚）然リ（元尾崎）第九百四十條ノ第三者ニ對シ已レノ有セサル權限ヲ有スルモノヽ如ク示シタルトキト云フハ第九百四十六條第三ト抵觸セサルカ代理人ハ權限アル如ク示サヽレハ第三者モ之ヲ信セス（筭作）第九百四十六條第三ハ委任者ノ過失ト云フヘシ

第九百四十八條　委任者ノミノ利益ノ爲ノニ委任セシ代理ノ廢罷ハ謝金ヲ約束シタルトキト雖トモ委任者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ例ニ從ヒ約束ノ文字ハ諾約トセリ

第九百四十九條　廢罷ハ將來ニ向ヒテノミ有効ナリ且其廢罷前ニ有効ニ爲シタル事柄ヲ害セス

日本學術振興會

無異議

第九百五十條　數人ノ委任者アルトキハ其中ノ一人ノ爲シタル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス

無異議

第九百五十一條　代理ノ廢罷ハ默示タルコトヲ得默示ノ廢罷ハ同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ委任者ノ管理ノ回復其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ

無異議

第九百五十二條　代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當又ハ已ムヲ得サル原因ニ基キタルトキハ此限ニ在ラス

代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得

（元尾崎）代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得ト云フハ如何ナル場合カ（笑作）代理者官途ニ奉仕シタルカ爲ノ代理ノ事務ヲ爲ス能ハサルトキノ如キヲ云フニアリ（尾崎）委任者ト受任者ト闘歐シタル場合ノ如シ

第九百五十三條　代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルト代理人ヨリ出テタルトヲ問ハス當事者ノ一方カ其告知ヲ受ケタルカ又ハ確實ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ニ告知シ又ハ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要ス

（栗塚）本條末項其相續人ニ告知シ又ハ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要ストアルハ意味不明ニ依リ起案者ニ質問シタルニ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要スト改正シ來レリ又初項ノ當事者ノ一方カトアル「ノ一方」ノ三字ヲ刪除シタシ（元尾崎）爻他ノ

代理ヲ受ケ死亡シタルトキ子ハ其事實ヲ知ラサルトキハ如何（松岡）之ヲ知ラサル場合ハ論ナカルヘシ（栗塚）第一項「ノ一方」ヲ刪除スルハ如何可決ス

第九百五十四條　代理終了ノ原因ハ委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻シタルトキト雖モ代理ノ終了後善意ニテ其代理人ト約束シタル第三者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

（委員長）第三者ニハ對抗スルヲ得スト云フモ代理者ハ既ニ代理ノ委任ヲ解除サレタルニ代理者ノ資格ヲ示スコトヲ許容スヘカラス（栗塚）本條ハ第三者ニハ過失ナキヲ顯ハシタルモノト云フヘシ（委員長）第三者ニハ過失ナシトスルモ最初ノ委任者ニ其責ヲ負ハシムルハ不都合ナリ斯クノ如キ場合ハ其責任ハ委任者ト第三者トニ於テ分擔スヘキニアラスヤ（北島）假令ハ或ル銀行ニ對シ午前ニ委任狀ヲ持セシメ金圓引出ノ約束ヲ爲シ置キ午後ハ其委任狀ヲ取戻シタルニ最初ノ代理者再ヒ銀行ニ到リ其金錢ヲ收受スルカ如キアルモ銀行ハ其責ニ任セサルヘシ（栗塚）其責任第三者ニ歸スルトセハ世人ハ終始疑惑ヲ生シ取引上不便至極ニアラスヤ（委員長）最初ノ委任者ハ代理ヲ解除シタルニモ拘ハラス無期ニ責任ヲ負ハサルヘカラスト云フハ不都合ナリ第三者ノ爲ノニハ便利ナルモ委任者ノ爲ノニハ不便ヲ惹起スルモノト云フヘシ第三者ハ取引ヲ爲ス際ニハ必ラス其委任狀アルヤ否ヲ問ハサルヘカラス其事項ヲ問ハサルトキハ第三者ノ過失ト云フ可シ（南部）本條ハ最初委任狀アル事實ヲ目視シタルモノニ限ルヘシ（委員長）最初ノ委任狀ヲ目視セサル者ニモ適用サルヘシ（栗塚）多クハ委任狀ノ有無ヲ問フヘキモ若シ委任狀ヲ目睹セサル爲ノ本條ヲ適用スルヲ得サルニアラサレハナリ（委員長）取引ノ際ハ委任狀ノ有無ヲ問ハサルヘカラストシ



日本學術振興會

テハ如何（栗塚）從來代理ヲ受ケ來リタルモノニ對シテハ委任狀ノ有無ヲ問フニ及ハサルヘシ（委員長）委任者ハ委任ヲ解止シタルトキハ之ヲ告知スヘキモノナレハ第三者ハ之ヲ諒知スヘシ（南部）委任者ハ何人ニ向テ告知スヘキヤ（栗塚）委任者ノ迷惑ハ圖ヨリ迷惑ナリト雖トモ之ヲ反對ニ想像スルトキハ苦タシキ惡結果ヲ生出スヘシ（元尾崎）但第三者ニ於テ懈怠アリタルトキハ此限ニ在ラスト云フヲ附記シテハ如何（栗塚）善意ト云フ文字ヲ懈怠ナク之ヲ知ラサルノ意味ニ解釋スレハ可ナリ（尾崎）善意ト云フ文字ノミニテハ懈怠ナク之ヲ知ラサルト云フ意味ト思惟スルヲ得ス（栗塚）然ラハ善意ト云フ文字ハ懈怠ナク之ヲ知ラサルトキハトシテハ如何（南部）懈怠ナクト云フ場合ナシ既ニ委任狀アルヲ認知シタルモノニ限ルヘケレハナリ（委員長）第三者中ニハ委任狀アルヲ認知セサル者アルヘシ（南部）第三者中之ヲ認知セサルモノナシ（松岡）善意ト云フ文字ノ解釋ハ事實上ニ屬スヘキモノナレハ裁判官ノ眼識ニ委附セサルヘカラス（清岡）善意ト云フ文字ハ單ニ知ラスト云フ意味ニ止マルヘシ（栗塚）善意ト云フハ當然知ラサルト云フ義ナリ知ルヘキヲ知ラサルハ善意ニアラス（槇村）善意ニシテノ下且懈怠ナクト云フ文字ヲ加入シテハ如何（栗塚）本條ノ善意ト云フ文字ハ歴史付トシテ善意ニシテ且過失ナクトシテハ如何（松岡）善意ニシテト云ヘハ過失ノ意味ヲ含蓄スルモノナリ（尾崎）其終了ヲ知ラス且懈怠ナキトキトシテハ如何（筭作）懈怠ナクト云フ文字ハ其終了ノ上ニ置クヲ可トス（南部）懈怠ナクシテ其終了ヲ知ラストスヘシ可決ス（栗塚）其代理人ト云フ「其」ハ除去スヘキヤ（南部）此代理人トシテハ如何（松岡）「其」ヲ除去スヘシ可決ス

第九百五十五條　代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一ニ由リテ終了シタルトキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタル利益ヲ自ラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ處理スルコトヲ要ス

此規定ハ代理ノ終了カ廢罷ニ因レルトキヨリモ拋棄ニ因レルトキハ一層嚴ニ之ヲ適用ス

（村田）本條第二項廢罷ノ文字ノ上ニ委任者ノト云フ字ヲ挿入シタシ（清岡）第二項ハ此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキハ委任者ノ廢罷ニ因レルトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ストシタシ可決ス

## 第二十一章　雇傭及ヒ仕事請負

### 第一節　雇傭

第九百五十六條　執事、番頭、僕婢、職工其他ノ雇傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

（栗塚）本章ノ請負ノ下契約ノ文字ヲ加ヘ本條ノ執事ト云フ字ヲ使用人トシ番頭ノ下手代ト云フ文字ヲ加ヘタシ可決ス（栗塚）勞務ニ服スルトアルハ勞務ニ供スルトシテハ如何（元尾崎）供スルト云フ字ハ不可ナリ勞務ニ服スルコトヲ得ト云フ得ノ文字ハ允當ニアラス（南部）原案ノ儘ニテ不都合ナシ

第九百五十七條　雇傭ノ期間ハ執事番頭等ニ付テハ五ケ年僕婢職工等ニ付テハ一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス但見習契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス



日本學術振興會

此ヨリ長キ時期ヲ約束シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニテ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲スノ權能ヲ妨ケス

（栗塚）本條ハ見習契約トアルヲ習業契約トシ執事ヲ使用人トセリ可決ス

第九百五十八條　雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且已ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス

如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

無異議

第九百五十九條　雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與ス可キコトヲ其主人ニ言渡ス

（清岡）付與ス可キコトヲ其主人ニ言渡ストアルハ付與セシムルコトヲ得トシタシ可決ス

第九百六十條　如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ賃銀ノ取並過額ヲ返還ス

（波）如何ナル場合ニ於テモノト云フ文字ハ除去シテハ如何原案ニ決ス

第九百六十一條　上ノ規定ハ俳優、音樂師等ノ藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭ニ之ヲ適用ス

又醫師辯護士ト其依頼人トノ間及ヒ學藝教師ト其生徒トノ間ノ關係ニ付テモ亦上ノ規定ヲ適用ス

（村田）醫師辯護士ノ如キハ雇傭契約中ニ包入スルヲ得ス（松岡）第二項ハ雇傭ト云フヲ得ス（栗塚）第二項ハ削除スヘシ可

此項ヲ追加シ次條ヲ削除スルノ建議其理由ハ下ニ詳ナリ



日本學術振興會

決ス（村田）角力ヲ加ヘテハ如何（松岡）等ノ文字アルニ依リ角力ノ文字ヲ加フルニ及ハス

第九百六十二條　醫師、辯護士及學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス是等ノ人ト其患者、訴訟人又ハ生徒トノ間ニ約束シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、訴訟人又ハ生徒ハ是等ノ者ノ世話ヲ求メテ約諾ヲ得タル後其世話ヲ受クルノ責ニ任セス

然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及契約トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得

是等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ約束シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒絶シタル者ハ其拒絶ヨリ是等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ賠償ノ責渡ヲ受ク

之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ約束シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絶シタル者ハ因テ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責渡ヲ受ク

（此條ヲ削除スルノ理由）　此條第一項ノ要領ニ曰ク「醫師代言人等ノ職業ハ之ヲ民法外ニ放置ス故ニ是等ノ者ト依頼人トノ間ニハ何等ノ約束アルモ民法上義務ヲ生セス」ト

起案者ノ說明ヲ按スルニ此種ノ者ハ下賤ナル雇傭人ト伍ヲ爲サス又此種ノ者ト依頼人トノ間ノ約束ハ其履行ヲ強要スルコトヲ得ス此二ノ理由アルヲ以テ此種ノ職業ヲ民法外ニ放置スト云フニ在リ

凡ソ醫師代言人等ノ職業ハ一ノ生業ナリ他ノ凡民ノ業ト何ンソ別タン農工商賈ハ法律ヲ以テ之ヲ支配シ醫師代言人ハ否セストノ主旨何等反覆熟考スルモ其理由ヲ發見セス又履行ノ強要シ難キハ獨リ醫師云々ノ數輩ノミナラス作爲ノ義務ニハ履行ノ強要シ難キモノ許多アリ第四百二條ニ明文アリ是ヲ以テ

此節一項ニ二三ノ職業ヲ限リテ法律外ノモノト爲スハ謂レナキノ法ナリ

又第二項ニハ既ニ爽ヘタル世話ノ報酬ヲ請求スルコトヲ記ス此ハ普通ノ義務篇ニ掲定シタルコトナリ

又第三項以下ニハ約束ヲ履行セサルカ爲メニ生シタル損害ヲ賠償スル責任アルコトヲ記セリ此モ普通義務中ニ規定セリ

右ノ理由アルヲ以テ此條ヲ削除スルノ議ヲ呈ス

（栗塚）本條ハ刪除ノ建議アルモ之ヲ存セシメタシ又「ニト」トアルハ「コト」トシ生徒ハトアルヲ生徒ニトシ約諾トアルハ諾約トシタシ可決ス（栗塚）第二項賠償ノ請渡ヲ受クトアルヲ其賠償ノ責ニ任ストシ第三項管渡ヲ受クトアルヲ責ニ任ストシタシ可決ス（松岡）法定ノ義務ナシトアル法定ノ文字ハ不可ナリ（南部）法定ノ義務ナシト云ヘハ裏面ニ道德上ノ義務アルヲ顯ハス（松岡）民法ニ義務ナシト云フハ道德上ノ義務ニアラサルヤ知ルヘシ（元尾崎）法定ノ義務ナシト云フハ不都合ナシ

第二節　見習契約

第九百六十三條　工業人又ハ商業人ハ見習契約ヲ以テ男女ノ見習者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ傳授シ見習者ハ其人ノ勞務ニ助力スルヲ約束スルコトヲ得

未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ補佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ見習契約ヲ取結フコトヲ得ス

（栗塚）工業人ト云ヘルハ工匠人トシ大工左官ノ類ヲモ包含セシメ商業人ハ商人トシ見習ハ習業トスヘシ可決ス

第九百六十四條　合式ニ補佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル見習契約ハ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス但見習者カ成



日本學術振興會

年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

例ニ從ヒ見習トアルヲ習業トセリ

第九百六十五條　見習契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ヲ定ム

見習契約ノ不備ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルコトヲ得

（栗塚）親方ト云フ文字ハ師匠トシタシ（松岡）師匠トスルハ不可ナリ（村田）稽古ヲ授ケル者ハ師匠ニアラスヤ（元尾崎）師匠ノミニテハ盡サヽルヲ以テ師匠又ハ主人トシテハ如何（南部）師匠又ハ親方トシテハ如何（北島）親方ト云ハス主人トスヘシ親方ノ文字ハ關東ノ方語ニ屬スレハナリ

第九百六十六條　親方ハ見習者ニ居室、食物及ヒ職業ノ器具ヲ與ヘ且日常ノ便用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反對ノ契約ナク且地方ノ

日本學術振興會



慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル

又親方ハ見習者ニ其見習契約ノ目的タル職業ヲ學フコトヲ得セシムル爲メ必要ナル時間ヲ與ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス

未成年ノ見習者カ未タ算筭ヲ知ラサルトキハ親方ハ何等ノ反對ノ契約アルモ見習者ニ算筭修習ノ爲メ休憩時間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ與フルコトヲ要ス

例ニ從ヒ親方ノ上ニ師匠又ハノ文字ヲ加ヘ見習ヲ習業トセリ

第九百六十七條　見習者ハ其學ハント欲スル職業ニ關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ親方ニ供スルコトヲ要ス

例ニ從ヒ見習ヲ習業トシ親方ノ上ニ師匠又ハノ文字ヲ加フ

第九百六十八條　見習者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他不可抗ノ原因ニ因リテ一ケ月以上引續キ勞務ヲ供スル能ハサルコト一回又ハ數

日本學術振興會

第四號ヲ第一號トス爲ノ建議

回ニ及ヒタルトキハ見習者ハ其成年ニ達シタル後ト雖トモ見習契約ノ期限滿了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足スルコトヲ要ス

本條モ見習ノ文字ヲ習業トス（松岡）一ケ月以上休業シタルトキハ其時間ヲ補足スヘキモノナレハ一回又ハ數回ノ文字ハ必要ヲ見ス（清岡）一回又ハ數回ヲ除去スルニ及ハス（筧作）疑惑ヲ回避セン爲メ之ヲ刪除スヘシ可決ス

第九百六十九條　見習契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス

第一　親方又ハ見習者ノ死亡

第二　親方又ハ見習者ノ陸海軍ノ服役

第三　親方又ハ見習者ノ言渡サレタル重罪ノ處刑又ハ三ケ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑

第四　契約又ハ法律ヲ以テ定メタル期限ノ滿了



本條ハ親方ノ上ニ「師匠」ト云フヲ加ヘ見習ヲ習業トスヘシ（南部）契約ハ合意トスルヤ（栗塚）然リ

第九百七十條　左ノ原因アル〳〵トキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルコトヲ得

第一　相互ノ義務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由ルトキモ亦同シ

第二　見習者ニ對スル親方ノ背惡ナル取扱

第三　見習者ノ平常ノ不品行

第四　前條ニ揭ケタル場合ノ外親方又ハ見習者ノ犯罪

第五　契約ヲ履行スヘキ府縣外ニ親方ノ轉居

本條ニ依リ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ倘ホ其損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ク前條ニ揭ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

本條モ親方ノ上ニ「師匠」ヲ挿入シ見習ヲ習業トシ府縣外ヲ土

地外トスヘシ可決ス

第四節　仕事ノ請負

第九百八十一條　工技又ハ勞力ヲ以テスル某ノ仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代金ニテ爲スノ契約ハ注文者ヨリ主タル材料ヲ供スルトキハ仕事ノ請負ナリ若シ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ仕事ヲ爲ス可キ有條件ノ賣買ナリ

（笑作）某ノ仕事ト云フハ或ル仕事トスヘシ可決ス（元尾崎）

請負人主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ條件付ノ賣買ニアラス矢張請負仕事ナリ（松岡）本條ノ定義ハ敢テ不都合ナシ

第九百八十二條　前條ニ揭ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ其物ノ滅失シタルトキハ材料ノ滅失ハ其材料ノ屬スル者之ヲ負擔シ請負人ハ仕事賃ヲ損失ス

日本學術振興會



當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタルカ又ハ引渡若クハ受取ニ付キ遲滯ニ在ルトキハ其一方ノミ材料及ヒ仕事賃ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但一層大ナル損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一ナル毀損カ物ニ其價額ノ半以上ヲ失ハシムルトキハ之ヲ全部ノ滅失ト同視ス又其減價カ半以下ニ在ルトキハ第百五十八條、第四百三十九條第三項及ヒ第四百四十條ノ規定ヲ適用ス

注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ存在スル材料ノ部分ノ增加シタル限度ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スルノ責ニ任ス

（栗塚）單一ナル毀損カト云ヘル文字ハ單ニ毀損カトシタシ（笑作）單一ナルト云フヲ可トス

第九百八十三條　注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ一分ニ付キ仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ約束スルコトヲ得但仕事完成ノ後ニ非サ

日本學術振興會

レハ其引渡ヲ實行セサル可キトキト雖モ亦同シ此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルノ遲滯ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危險ノ責ヲ免カル

仕事中ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタリト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付遲滯ノ以前ニ滅失シタルトキハ注文者ハ既成ノ仕事ノ代金ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スコトヲ得ス

（筭作）前金ト内金トハ如何ナル差異アリヤ（栗塚）第二項ハ起案者ニ質問シ置キタルモ未タ回答ニ接セス（元尾崎）起案者ハ蓋シ恩惠ヲ與フルノ意ナラン（栗塚）金額ヲ取戻スヲ得スト云ヘハ未タ金額ヲ供セサルトキハ燒失部分ニ於ケル代價ヲ供スレハ可ナルモ只今起案者ヨリ回答ヲ得タルニ金額ヲ供シタルトキハ危險ヲ分擔スルノ意思ニテ之ヲ取戻サヽルナリト云フニアリ（筭作）起案者ハ請負人已ニ補手者ニ與ヘタル金額マテモ取戻サルヽニ至テハ迷惑ナルモ先ツ危險ヲ分擔スルト云フ理由ヲ以テ充分ナリト云フ結局第一項ハ注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ其引渡ヲ實行セサル可キトキト雖トモ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルコトヲ得云々トスルニ可決ス

第九百八十四條　注文者カ異議ヲ留メスシテ工作物ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隱潛ノ瑕疵ヲ發見スルトキハ注文者ハ其受取テ取消シテ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル動產又ハ不動產ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ三ケ月ニテ消滅ス



日本學術振興會

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第七百四十六條ノ規定ヲ適用ス

無異議

第九百八十五條　建物、牆壁其他地上ニ於ケル大工作物ヲ請負ニテ築造シタルトキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ス

但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト材料ヲ供セサリシトヲ區別セス

右責任ハ左ノ期限ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第一　牆壁其他木、石又ハ瓦ヲ從トシテ用ヒタル工作ニ付テハ其受取後二ケ年

第二　木造ノ建物ニ付テハ五ケ年

第三　石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土藏ニ付テハ十ケ年

（栗塚）第一項材料ヲ供セサリシトヲ區別セストアルハ之ヲ供セサリシトヲ區別セストシタシ（松岡）否トヲ區別セストスヘシ可決ス（松岡）大工作物ハ大ナル工作物トスヘシ可決ス（栗塚）右責任ハ左ノ期間ノ滿了ニ依リテ消滅ストアルヲ右責任ハ左ノ時期間繼續ストシタシ可決ス（栗塚）第一工作トアルハ土工トシタシ（築作）土工トスル理由ハ如何（栗塚）多クハ瓦石等ヲ用ユル場合ナレハ土工ニ屬スレハナリ可決ス第二木造ト云フ文字ハ木材ヲ主トシテ用ヒタルトシタシ（元尾崎）可ナリ可決ス（尾崎）十ケ年間請負人ヲシテ其責任ヲ受ケシメントスルハ苛酷ナリ（松岡）土木會社ノ如キハ此責任ヲ負フヘシトスルモ尋常ノ大工ニシテ長年月ノ間其責任ヲ負ハシメントスルハ無理ナリ（委員長）木造ノ建物ハ三ケ年ノ責任トスヘシ可決ス

第九百八十六條　右ノ責任ニ基キタル賠償訴權ハ左ノ時期ヲ以テ時

効ニ帰ル

第一　物ノ全部ノ滅失ノ場合ニ於テハ其滅失ノ時ヨリ一ケ年

第二　物ノ一分ノ滅失又ハ重大ノ損壊ノ場合ニ於テハ請負人ノ責ニ任ス可キ期間ノ満了ノ時ヨリ六ケ月

（栗塚）損壊ノ文字ハ例ニ従ヒ毀損トスヘシ可決ス

第九百八十七條　経費ノ変更ヨリ代金ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其変更ヲ口實トシテ請負人ハ原代金ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

全ク區分セル建築ヲ請負外ニ爲シ又ハ請負内ノ全ク區分セル建築ヲ廃セシトキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルトキハ裁判所原代金ノ増減ヲ定ム

請負人ハ経費又ハ其変更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第九百八十五條ニ定メタル責任ヲ免カルヽコトヲ得ス但請負

日本學術振興會



人カ書面ヲ以テ此責任ノ免除ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

（南部）本條末項此責任ノ免除ト云フハ此責任ノ免責トスヘキヤ（栗塚）此責任ノ免カルルコトトシタシ可決ス（松岡）第二項冒頭ノ全ク區分セル建築ヲ請負外ニ爲シトアルヲ請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シトスヘシ可決ス（南部）又ハ請負内ノ全ク區分セルトアルヲ又ハ請負中ノ區分アルトスヘシ可決ス

第九百八十八條　請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトヲ問ハス注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨済スルノ義務ヲ負擔ス

無異議

日本學術振興會

第九百八十九條　他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタルト契約ヲ解除シタルトヲ問ハス請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ金額ノ皆濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置權ハ動產物ノミニ之ヲ適用ス

無異議

第九百九十條　注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ目的トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不得爲ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目的ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ代金ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨濟スルノ責ニ任ス

（栗塚）本條ノ不得爲トアルハ例ニ從ヒ不能トスヘシ可決ス（村田）第一項目的ノ文字ハ主眼トスヘシ可決ス

第九百九十一條　仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦已レヲ雇ヒタル請負人カ賃銀ヲ辨濟セサルトキハ注文者ニ對シ右ト同一ノ權利ヲ有ス

（栗塚）本條末項職工モ亦已レヲ雇ヒタル請負人トアル下ニ「下請負人」ト云フ字ヲ挿入セサレハ下請負人ヲ漏脫スルニ至ルヘシ（村田）「請負人カ」トアルヲ「者カ」トスレハ之ヲ包含スヘシ可決ス



日本學術振興會

本條削除建議

## 第三章　賃借權、永借權及ヒ地上權

### 第一節　賃借權

第百二十一條　動產ト不動產トヲ問ハス有体物ノ賃貸借ハ賃借人カ賃貸人ニ金錢其他ノ有價物ヲ定期ニ拂フコトヲ約シ賃貸人カ賃借人ニ或ル時間賃借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利ヲ與フ但後ノ第二款及ヒ第三解ニ定メタル如ク約束ニ因リ又ハ法律ノ効力ニ因リテ當事者ノ負擔スル相互ノ義務ヲ妨ケス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ賃借カトアルヲ賃借人ヨリトシ拂フコトヲトアルヲ拂フノトシ約シトアルヲ約ニテトシ賃貸人カトアル三字ヲ削除シタシトス（清岡）賃貸借權ト云フ「權」ノ字ヲ削ルヘキヤ（南部）賃貸借ト云フトキハ權ノ字ヲ除去スルコトトセリ可決ス

第百二十二條　工作又ハ工業及ヒ傭吏ノ賃貸借ノ契約ハ第三編ニ於



日本學術振興會

テ之ヲ規定ス

獣畜ノ賃貸借ニ特別ナル規則モ亦第三編ニ於テ之ヲ規定ス

（南部）本條ハ雇傭契約ニ屬スルモノナレハ削除スヘシ（箕作）工作又ハ工業及ヒ傭役ノ賃貸借ヲ除去スヘキモノトセハ前條ニ於ケル有体物ノ文字ヲ擧クルノ必要ナシ（松岡）然リ（横村）前條ハ動産及ヒ不動産ノ賃貸借トスヘキヤ（箕作）然ルヘシ可決ス（栗塚）本條ハ削除スヘキヤ卽チ削除ニ決ス

第百二十三條　國、府縣、町村及公設所ニ屬スル財産ノ賃貸借ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

（栗塚）本條ハ町村ノ上ニ市ノ文字ヲ挿入スヘシ（元尾崎）行政法ノ發布ナキトキハ如何（渡）行政法ノ發布ナキモ民法ヲ適用スルヲ得サルヘシ（元尾崎）官民契約ニ屬スル場合ハ民法ニ依準セサルヲ得ス原案ニ可決ス

日本學術振興會

第一款　賃借權ノ設定

第百二十四條　賃借權ハ賃貸借契約ヲ以テ之ヲ設定ス

賃借權ヲ贈遺シタル場合ニ於テハ相續人ハ遺言書ニ記載シタル項目及ヒ條件ニ從ヒテ受遺者ト賃貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス

賃借權ヲ豫約シタル場合ニ於テモ諾約者ハ要約者ト賃貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス

（栗塚）項目ノ文字ハ約款トスヘシ（箕作）遺言書ニハ約款ト云フモノアラサルヘシ（栗塚）項目ト爲シ置クヘキヤ可決ス（松岡）贈遺ト云フ文字ハ遺贈トスヘシ可決ス

第百二十五條　賃貸借契約ハ有償名義ナル双務ノ契約ノ通則ニ從フ

但後ニ掲ケタル變例ヲ妨ケス

（栗塚）有償名義ナル双務ト云フ文字ハ報告委員ニテ有償且双務ノトシタシ可決ス



日本學術振興會

第百二十六條　法律上又ハ裁判上ノ管理者ハ其管理スル物ヲ賃貸スルコトヲ得然レトモ管理者カ期間ニ付キ特別ノ委任ヲ受ケスシテ賃貸スルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第一　獣畜其他ノ動産ニ付テハ二ケ年

第二　居宅、店舗其他ノ建物ニ付テハ三ケ年

第三　耕地、牧場、樹林、池沼其他土地ノ部分ニ付テハ五ケ年

（要綱）本條「然レトモ管理者カ期間ニ付キ特別ノ委任ヲ受ケスシテ賃貸スルトキハ」ト云ヘルヲ刪除シ但其賃貸借ハト云フ文字ヲ挿入スヘシ（筆作）但其賃貸借ハ云々トセス原案ノ儘ニテ不都合ナシ可決ス

第百二十七條　管理者ハ前條ニ記載シタル賃貸物ノ區別ニ從ヒ限期間ノ満了ニ先タツ三ケ月、四ケ月又ハ六ケ月内ニ非サレハ同一ノ期間ヲ以テ賃貸借ヲ更新スルコトヲ得ス



然レトモ右ノ時期ニ先タチ爲シタル更新ハ管理者ノ委任ノ止ムヨリ前ニ既ニ新期間ノ始マリシトキハ無効ナラス

無異議

第百二十八條　管理者ハ金錢外ノ有價物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得ス

然レトモ田畑ニ付テハ其産出物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得

（要綱）本條ハ議ニ議場ノ刪除トナリシモ其旨ヲ以テ起案者ニ質問シタルニ起案者ヨリ回答アリシニ依リ更ラニ報告委員ニテ第一項ハ管理者ハ金錢外ノ有價物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得ストシ第二項ハ然レトモ田畑ニ付テハ其産出物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得トセリ（元尾崎）田畑ノ文字ハ耕地トスヘシ可決ス

第百二十九條　前二條ノ規定ハ代理人ニ之ヲ適用ス但代理委任ノ書

面ヲ以テ其權限ヲ伸縮シタルトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）前二條ハ前三條トナリ代理人ニ之ヲ適用ストアルヲ合意上ノ總テノ管理者ニ之ヲ適用ストシ但ノ下代理ノ文字ヲ刪除スヘシ（笑作）合意上ノ總テノ管理者ト云フニテハ代理人ト云フ意味ト思惟シ難キ場合アリ（村田）合意上ト云フ文字ハ必要ナリ（栗塚）本條ヲ除クノ外代理人ト云ヘハ合意上及ヒ法律上ノ代理人ヲモ包含スヘシ（笑作）本條ハ別ニ疑團ナシ

第百三十條　自己ノ財産ヲ管理スルコトヲ得ル婦及ヒ既脫後見ノ未成年者モ亦前二條ノ規定ニ從フニ非サレハ其財産ヲ賃貸スルコトヲ得ス

（栗塚）本條ハ前二條ノ規定トアルヲ管理者ト同一ノ條件トシタシ可決ス（渡）自己ノ財産ヲ管理スルコトヲ得ル婦ハトアル文字ニハ最初議論ノ焦點トナレリ（清岡）婦ト云フ文字ハ女性ノ通稱ナルヘシ（栗塚）婦ハ有夫女子ヲ云フ（渡）有夫ノ女子ナルニ依リ議論アリ（元尾崎）良夫ノ許可アレハ其婦ヲシテ原告又ハ被告ノ地位ニ立タシメテ可ナリ（松岡）有夫ノ婦ヲシテ賃貸借權ニ限リ權利上ノ制限ヲ附シテ可ナリヤ（元尾崎）英國抔ニハ有夫ノ婦ハ民事上ニテハ夫ノ許可ヲ得サルヘカラサルコトトナレリ原案ニ可決ス

第百三十一條　前數條ニ反シタル賃貸借又ハ其更新ニシテ所有者其權利ヲ自在ニスルコトヲ得ルニ至リ追認シタルモノニ付テハ賃借人ハ其無効又ハ短縮ヲ請求スルコトヲ得ス

然レトモ賃借人ハ所有者ノ追認スルヤ否ノ意思ヲ第百二十六條ニ區別シタル賃借物ノ性質ニ從ヒ八日、十五日又ハ三十日ノ期間ニ述フルヲ常ニ要求スルコトヲ得

所有者カ其意思ヲ述フルコトヲ拒ムトキハ賃借人ハ起初又ハ更新



日本學術振興會

ニ於テ定メタル如ク賃借期間ヲ存持セントスルコトヲ得

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ第一項更新ニシテトアル文字ヲ更新ナルモトシ追認ト云フ文字ハ之ヲ認諾シトシ第二項追認トアルヲモ認諾トシ「意思ヲ」ノ下述フルコトヲ常ニ要求スルコトヲ得但其意思ヲ述フルノ期間ハト云フ數字ヲ挿入シ三十日ノ期間云々トアルヲ三十日トストセリ（元尾崎）意思ヲノ下ノ修正ハ原案ノ儘ニ置キタシ可決ス（栗塚）第三項存持ト云ヘル文字ハ維持トシタシ可決ス（元尾崎）無効ノ申立ハ賃貸人ノ利益ニ歸スヘキニ賃借人ハ云々ト云フハ允當ナリヤ（栗塚）社會ノ秩序ニ害アル者ハ賃貸人ニ限ラス之ヲ請求スルヲ得ヘシ然ルニ年長ニ達シ之ヲ認諾シタルモノニ付テハ賃借人ハ其無効ヲ請求スルヲ得スト云フ義ナリ（松岡）賃貸借ニ於ケル無効ノ請求ハ其利益賃貸人ニ存セルヲ以テ本條第一項ノ行文ハ平穏ヲ得ス（村田）凡ソ法律ニ違反シタル者ハ何人ヨリモ無効ヲ請求スルヲ得ヘシ然ルモ賃借人之ヲ認諾シタル以上ハ賃借人ハ其無効ヲ請求スルヲ得サルモノトス（筭作）無能力者ノ利益ノ爲メ締結セル契約ニ付テハ有能力者之ヲ解廢スルヲ得サルハ一般ノ原則ト云フヘシ爰ニ民法編纂局ニ於テ種々議論アリシニ依リボアソナート氏ニ質問シタルニ當時同氏ハ之ヲ刪除シタルニ今又之ヲ記入シ來タレリ（栗塚）認諾セサル以上ハ無効ヲ請求スルヲ得ルモノト思惟セリ假ニ第一項ハ賃借人ハ前數條ニ反シタル賃貸借又ハ其更新ノ無効又ハ短縮ヲ請求スルコトヲ得ストシ第二項ハ然レトモ所有者其權利ヲ自在ニスルヲ得ルニ至リタルトキハ賃借人ハ云々ト爲シ置キ更ラニ起案者ヨリ確答ヲ得タルトキハ其答案ニ從フヘシ其議ニ決ス

第百三十二條　所有者ノ爲シタル不動産ノ賃貸借カ二十ケ年ヲ超ユ



日本學術振興會

ルトキハ其賃貸借ハ永貸借ト爲リ此種ノ賃貸借ノ爲メ後ノ第二節ニ定メタル規則ニ從フ

（栗塚）二十ケ年ハ三十ケ年トシタシ時効ノ如キモ三十ケ年ヲ期限ト爲セハナリ（松岡）三十ケ年トスルハ慣習ニ反スヘシ（渡）三十ケ年ヲ可トス（尾崎）從來ハ二十ケ年ヲ經過シタルトキハ小作人ノ利益ニ歸セシメ之ヲ永小作ト爲スヘキアリ（清岡）地主ノ利益ヨリ云ヘハ三十ケ年ヲ期限トスヘキモ小作人ハ二十ケ年モ使用スレハ自己ノ資力ヲモ耗費シタルモノナレハ在來ノ習慣ニ從ヒ二十ケ年トスヘシ（南部）二十ケ年以上ニ至ルトキハ永小作ト爲ルヘキ習慣ハ名田小作ニ於テノミナルヘシ（尾崎）二十ケ年以上ニ渉ルトキハ皆名田小作ニアラサルモノナシ多數ニ依リ三十ケ年トスルニ可決ス

第二款　賃借人ノ權利

第百三十三條　賃借人ハ賃借物ニ付キ用益者ト同一ノ利益ヲ收ムル權利ヲ有ス但其賃貸借設定ノ契約及ヒ法律ノ規定ヨリ生スル權利ノ增減ハ此限ニ在ラス

（栗塚）本條契約ノ文字ハ行爲トシタシ（村田）契約ト云フニテ可ナリ可決ス

第百三十四條　賃借人ハ其收益ヲ始ムル爲メニ定メタル時期ニ於テ賃借物ノ占有ヲ賃貸人ニ要求スルコトヲ得然レトモ財產ノ目錄又ハ形狀書ヲ作リ及ヒ保證人ヲ立ルノ責ニ任セス但契約ニ因リテ其責ニ任スルトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ但書ヲ刪除シ然レトモトアルヲ但契約ニ因ルノ外云々トシタシ（元尾崎）原案ヲ可トス可決ス

第百三十五條　賃借人ハ物ノ引渡前ニ其用方ニ從ヒ一切ノ修繕ヲ完好ニスルヲ賃貸人ニ要求スルコトヲ得

其他賃貸人ハ賃貸借ノ期間大小修繕ヲ爲スノ責ニ任ス但下ノ二項ニ掲ケタル修繕及ヒ賃借人又ハ其僕婢ノ過失若クハ懈怠ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ハ賃借人之ヲ負擔ス

賃貸人ハ賃貸借ノ期間壁、建具、塗彩及ヒ壁紙ノ保持ヲ負擔セス」

又井戸、用水溜、汚物溜又ハ水動管ノ疏浚及ヒ普通ニ賃借人ノ爲ス可キ修繕ヲ負擔セス

（栗塚）下ノ二項トアルヲ左ノ二項トシタシ可決ス（村田）第三項ハ冒頭ニ賃貸人ト云フ文字ヲ加ヘタシ（栗塚）「又」ト云フ字アルヲ以テ自ラ明ナリ

第百三十六條　建物ニ必要ト爲リタル大修繕ハ賃借人ヨリ之ヲ要求セス且此カ爲メ賃借人ニ多少ノ不便ヲ生セシム可シト雖モ賃貸人之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ賃借人ハ右修繕ノ一ケ月ヨリ長ク繼續スルニ因リテ損害ヲ被リタルトキハ其賠償ヲ受クルコトヲ得又時間ノ如何ヲ問ハス右修繕ノ爲メ其賃借物中住居ス可キ全部又ハ商業若クハ工業ニ極メテ必要ナル部分ヲ失フ可キトキハ賃借人ハ賃貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

（栗塚）第二項賃借物中トアルハ賃借物ノトシタシ（槇村）賃借物中ト云ヘルヲ可トス可決ス（栗塚）解除ノ文字ハ銷除トスヘシ（委員長）起案者ハ此原文ヲ改メタリヤ（栗塚）然リ（尾崎）損害賠償ヲ受クルト云フ意ハ削除シタシ（元尾崎）然レトモ賃借人ハ右修繕ノ一ケ月ヨリ長ク繼續スルニ因ルカ或ハ其賃借物中云々トシタシ賃貸人之ヲ修繕スルニ付キ損害賠償ヲ出サヽルヘカラサルト云フハ不都合ニアラスヤ（笑作）此損害賠償ト云フハ借賃ノ減少ト云フニ過キサルノミ（栗塚）繼續スルニ因リ云々得トアルヲ繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ請求スルコトヲ



日本學術振興會

得トシテハ如何（元尾崎）其割合ニ應シ借賃ノ減少ヲ求ムルコトヲ得トシテハ如何（栗塚）割合ニ應スルノ文字ハ必要ヲ見ス

結局繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得トスルニ決ス

第百三十七條　賃借人カ第三者ノ所爲ニ因リテ收益ノ權利ニ妨碍又ハ爭論ヲ受ケ其原因ヲ賃借人ノ責ニ歸ス可カラサルトキ賃借人ヨリ合式ニ告知ヲ受ケタル賃貸人ハ其訴訟ニ參加シテ賃借人ヲ擁保シ又ハ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

（栗塚）本條ハ其原因ヲトアル「ヲ」ハ刪除スヘシ可決ス

第百三十八條妨碍カ戰爭、旱魃、洪水、暴風、火災ノ如キ不可抗ノ力又ハ官ノ處分ヨリ生シ此カ爲メ毎年ノ收益ノ三分一以上ノ損失ヲ致シタルトキハ賃借人ハ其割合ニ應シテ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得

又右ノ妨碍カ引續キ三ケ年ニ及フトキハ賃借人ハ賃貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得建物ノ燒失其他ノ毀滅ノ場合ニ於テ所有者カ一ケ年内ニ之ヲ再造セサルトキモ亦同シ

無異議

第百三十九條　土地又ハ建物ヲ以テ主タル目的物ト爲シタル賃貸借ニ於テ其現在ノ坪數カ契約ノ坪數ヨリ少ナク又ハ多キトモハ土地又ハ建物ノ賣買ニ於ケルト同一ノ條件ニ從ヒテ借賃ノ增減又ハ契約ノ銷除ヲ爲スコトヲ得

無異議

第百四十條藏場制除

第百四十一條　賃借人ハ賃貸人ノ明許ヲ要セスシテ賃借地ニ適宜ニ建物ヲ築造シ又ハ樹林ヲ栽植スルコトヲ得但現在ノ建物又ハ樹林ニ何等ノ變更ヲモ加フルコトヲ得ス



日本學術振興會

賃借人ハ舊狀ニ復スルコトヲ得ヘキトキハ其築造シタル建物又ハ栽植シタル樹林ヲ賃貸借ノ終ニ敢去スルコトヲ得但第百五十六條ヲ以テ賃貸人ニ與ヘタル權能ヲ妨ケス

（栗塚）樹林トアルハ樹木トシテハ如何可決ス

第百四十二條　賃借人ハ賃貸借ノ期間ヲ超エサルニ於テハ其賃借權ヲ無償若クハ有償ノ名義ニテ讓渡シ又ハ其賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得但反對ノ約束アルトキハ此限ニ在ラス

賃借人ハ讓渡ノ場合ニ於テハ賃與者又ハ賃主ノ權利ヲ有シ轉貸ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ權利ヲ有ス

右執レノ場合ニ於テモ賃借人ハ賃貸人ニ對シ其義務ヲ免カルコトヲ得ス但賃貸人カ轉借人ト更改ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

果實又ハ產出物ノ一分ヲ以テ賃貸ト爲シ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ許サヽルトキハ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ハ賃貸人ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

（元尾崎）反對ノ慣習アルトキハ此限ニ在ラスト云フハ奇異ナリトス（栗塚）禍ハ兼ニ論決ニ屬セリ

第百四十三條　不動產ノ賃借人ハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得但讓渡又ハ轉貸ヲ禁セサルトキニ限ル

（栗塚）本條ハ禁セサルトキニ限ルトアルヲ爲スコトヲ得ヘキトキトシタシ（渡）可ナリ（松岡）爲スコトヲ得ヘキトキト云フ理由如何（栗塚）禁セサルトキト云フハ合意ノミニ關シ慣習ノ場合ヲ認ノサルカ如クナレハナリ可決ス

第百四十四條　賃借人ハ其權利ヲ保存スル爲ノ第三者ニ對シテ用益權ニ關シ第七十條ニ記載シタル訴權ヲ行フコトヲ得

（栗塚）第三者ノ上ニ賃貸人及ヒト云フ文字ヲ加ヘ用益權ニ關シノ數字ヲ刪除シタシ可決ス



日本學術振興會

第三款　賃借人ノ義務

第百四十五條　賃貸人其權利ヲ保存スル爲ノ賃貸物ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ラント欲スルトキハ賃借人ハ何時ニテモ賃貸人カ己レト立會ヒテ之ヲ作ルヲ許諾スルコトヲ要ス但其書類ノ費用ヲ分擔セス」

賃借人モ亦賃貸人ヲ召喚シ立會ノ上自費ニテ右目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得

目錄又ハ形狀書ヲ作ラサリシトキハ賃借人ハ修繕完好ノ形狀ニテ賃借物ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

目錄ナキトキハ動產ノ實狀及ヒ形態ノ證明ハ賃貸人ノ責ニ歸シ通常ノ方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

（栗塚）實狀及ヒ形態トアルハ實狀及ヒ形狀トシタシ（元尾崎）形態ト云フニテモ妨ケナシ（栗塚）中身ト外形ト云フ義ナレハ形狀トシテハ如何（村田）形態ト云フヲ可トス（栗塚）證明ノ文字ハ擧證トシタシ（村田）擧證ノ文字ハ何レニモ存用セサルニ決セリ（槇村）實狀ト云フハ如何ナル義カ（栗塚）堅キトカ或ハ脆キトカ云ヘルカ如シ（村田）本條ハ動產ノ證明ニ止マリ不動產ニ及ハサルヤ（元尾崎）動產ハ推定ニ苦シムト雖トモ不動產ハ推定ニ交易ナリ（元尾崎）動產ノ形狀ニ付キ擧證セントスルモ困難ナルヘシ（栗塚）動產ハ敗壞シ易ク一定ノ形狀ヲ存續シ難キモノナレハナリ（矢作）第三項ハ不動產ニ付キ規示シタルモノナラン（栗塚）或ハ然ラン冒頭ノ目錄又ハト云フ文字ヲ削除スヘシ可決ス（栗塚）第三項實狀トアルハ實体トシ形態ハ形狀トシ證明ハ擧證トシタシ（松岡）證明ト云フハ擧證トスルヲ可トス訴訟法ニ於テ擧證ノ文字ヲ取リ除キタレハナリ（栗塚）擧證ノ文字ハ到底捨置クヲ得サレハ擧證トシタシ結局擧



日本學術振興會

證ニ可決ス

第百四十六條　金錢ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ賃借人ハ約束ノ時期ニ之ヲ拂ヒ約束ナキトキハ毎月末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ此限ニ在ラス

果實ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ收穫後ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス收穫後ニ於テハ其全部ヲ要求スルコトヲ得

（栗塚）約束ノ時期ト云フハ合意シタル時期トシ收穫後ニ於テハ其全部ヲ要求スルコトヲ得ト云フハ別ニ必要ナキヲ以テ之ヲ刪除セリ可決ス

第百四十七條　賃借人カ右ノ拂入ヲ爲サス又ハ賃貸借ノ其他ノ特別ナル項目又ハ條件ヲ履行セサルトキハ賃貸人ハ訴訟ヲ以テ賃借人ニ對シ直接ニ其履行ヲ強要シ又ハ損害アルトキハ其賠償ヲ得テ賃貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ賃借人借賃ヲ拂ハス其他賃貸借ノ特別ナル約款又ハ條件ヲ履行セサルトキハ賃貸人ハ賃借人ニ對シ直接ニ其履行ヲ強要シ又ハ損害アルトキハ其賠償ヲ得トアルヲ賃貸借ノ銷除ヲ請求スルコトヲ得トシタシ（元尾崎）右ノ拂入ヲ爲サス云々ト云ヘルハ可ナリ（松岡）直接ニト云フ文字ハ脇目ヲ振ラスト云フ意ナルモ其文字ノ必要ナシ卽チ直接ニノ文字ヲ刪除シ報告委員ノ修正ニ可決ス

（第百四十八條）　一賃貸人先取特權ノ條ニ轉入）

（栗塚）本條ハ起案者カ之ヲ賃貸人先取特權ノ條ニ轉入セリ

第百四十九條　賃借人ハ賃借物ニ直接ニ賦課セラルヽ通常及ヒ非常ノ租稅ヲ負擔セス租稅法ニ依リ賃借人ヨリ徵收スル租稅ハ其借賃ヨリ之ヲ扣除シ又ハ賃貸人ヨリ賃借人ニ之ヲ償還ス但反對ノ約束アルトキハ此限ニ在ラス

日本學術振興會

然レトモ賃借人ノ築造シタル建物ニ賦課セラレ又ハ賃借不動産ニ於テ賃借人ノ營ム商業若クハ工業ニ賦課セラル、租税其他ノ公課ハ賃借人之ヲ負擔ス

（松岡）本條ハ何ノ必要ヲモ見ス（栗塚）事理明白ナルニモ拘ハラス尚ホ明カニ規定シタリト云フニ過キス（元尾崎）賃借人ヨリ徴收スル租税ト云ヘハ賃借人ニ課セラルヘキ租税ノ如キ類ヒアリ（松岡）賃借人ノ手ヨリ徴收スルトシテハ如何（清岡）徴收スル租税ハトアルヲ徴收スルコトアルトキハトシタシ租税法ノ定メ方ニ依リ賃借人ヨリ上納セサルヘカラサルニ至ルヲ以テナリ（栗塚）此租税ヲ徴收スルコトアルトキハトシタシ然ラサレハ之ヲ扣除シトアルモノ何ヲ指シタルヤ知ラサレハナリ（清岡）此租税ト云フ文字ヲ挿入スルハ不可ナリ其議ニ決ス

第百五十條　賃借人ハ明示ト默示トヲ問ハス約束ヲ以テ定メタル用方ニ從フニ非サレハ賃借物ヲ使用スルコトヲ得ス其約束ナキトキハ契約ノ時ノ用方又ハ賃借物ノ性質ニ相應シテ毀損セサル用方ニ從フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

無異議

第百五十一條　賃借人ハ賃借物ノ看守及ヒ保存ニ付キ用益者ト同一ノ義務ヲ負擔ス

第三者カ賃借物ニ侵奪ヲ加ヘ又ハ營作ヲ爲ストキハ賃借人ハ第九十九條ニ記載シタル如ク用益者ト同一ノ責ニ任ス

無異議

第百五十二條　一箇ノ建物ニ數人ノ賃借人アルトキハ各賃借人ハ所有者ニ對シ其賃借部分ノ價額ニ應シテ火災ノ責ニ任ス但各賃借人又ハ其幾人ニ過失ナキノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

（栗塚）報告委員中ニ於テ幾ニ第百五十三條ヲ議場ニテ刪除シ



日本學術振興會

タルヲ以テ遺憾ニ堪ヘサルモノアレハ本條ト共ニ起案者ノ意見聽了シタル以上是出スヘキニ付キ第百五十四條ヲ合セ暫時未定ニ乞ヒ置キタシ其議ニ決ス（笑作）第七十八條ニ實狀ノ文字アルハ實体トセサルモ可ナリヤ（栗塚）實体トスヘシ可決ス

（第百五十三條議場削除）

（栗塚）追訴トアルヲ訴追トスヘシ可決ス

第百五十四條　所有者カ燒失セシ建物ノ一部分ニ住居シタルトキハ火災カ其部分ヨリ起ラサリシコトヲ證スルニ非サレハ賃借人ニ對シ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

（松岡）本條ハ削除シタシ（元尾崎）本條ハ賃借人之ヲ他ニ賃渡セントスルトキハ賃貸人ヲシテ先買スルヲ得セシムヘキ權ヲ與フルモノトスヘシ（笑作）原案ハ其精神ナルヘシ（元尾崎）文字上其意味ヲ覺知スルヲ得サレハナリ（横村）第二項ニ先買權アルヲ示シタルヲ以テ其意味タルヲ覺知スヘシ（栗塚）第七十三條鑑定人ノ上ニ賣ラントスルトキハト云フ文字ヲ加フレハ其意義ヲ失ハサルヘシ（松岡）然リ結局第七十三條第一項ハ用益權消滅ノ時用益者又ハ其相續人カ前條ニ從ヒ收去スルコトヲ得ヘキ建物及ヒ樹木ヲ賣ラントスルトキハ鑑定人ノ評價シタル現時ノ價値ヲ以テ先買スルコトヲ得トス（南部）本條ハ「樹木ヲ」ノ下先買スルコトヲ得トスヘシ然スルトキハ第七十三條ト照應シテ不都合ナシ（清岡）收去スルヲ得ヘキ建物及ヒ樹木ヲ先買スルヲ得ト云フハ不可ナリ第七十三條第一項ニ賣ラントスルトキハト云フ文字ヲ加ヘシニ付キ同條第二項ニ其收去ニ着手セサルヲ得ストアルハ其賣却又ハ收去ニ着手スルヲ得ヘキヲ要ス（南部）第二項モ收去及ヒ賣却ヲ包含スルモノナリ（松岡）本條第二項ハ此場合ニ於テハト云フ文字ヲ加ヘテ之レ



日本學術振興會

ヲ第一項ト合併スヘシ可決ス

第百五十五條　賃貸借ノ終ニ賃借人カ賃借物ヲ返還セサルトキハ賃貸人ハ其還掃ヲ以テ對人訴權又ハ物上訴權ニテ之ヲ追訴スルコトヲ得

第百五十六條　賃貸人ハ賃貸借ノ終ニ第百四十一條ニ依リテ賃借人ノ收去スルヲ得ヘキ建物及ヒ樹林ヲ鑑定人ノ評價ニ從ヒ現時ノ相場ヲ以テ已レニ讓渡スヲ要求スルコトヲ得

第七十三條ハ右先買權ニ之ヲ適用ス

第四款　賃借權ノ消滅

第百五十七條　賃借權ハ左ノ諸件ニ因リテ當然消滅ス

第一　賃借物ノ全部ノ滅失

第二　賃借物ノ全部ノ公用徵收

第三　賃貸人ニ對スル追奪又ハ賃貸物ニ存スル賃貸人ノ權利ノ取消但其追奪及ヒ取消ハ賃貸借契約以前ノ原因ニ由リ裁判所ニ於テ之ヲ宣告セシトキニ限ル

第四　明示若クハ默示ニテ定メタル期間ノ滿了又ハ約束シタル解除ノ未必條件ノ成就

第五　初ヨリ期間ヲ定メサルトキハ解約告知ノ後法律上ノ期間ノ滿了

右ノ外賃貸借ハ法律ニ定メタル條件ノ本履行其他ノ原因ノ爲メ當事者ノ一方ノ請求ニ因リ裁判所ニテ宣告シタル取消ニ因リテ終了ス

（栗塚）本條第四解除ノ未必トアル「ノ未必」ヲ刪ルヘシ可決ス（栗塚）別項ハ法律ニ定メタルト云フ文字ヲ其他ノトアル上ニ轉入シ又ハ法律ニ定メタルトスヘシ可決ス

第百五十八條　意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ賃借物ノ一分ノ滅

日本學術振興會

失シタルトキハ賃借人ハ第百三十八條ニ記載シタル條件ニ從ヒテ賃貸借ノ解除ヲ請求シ又ハ賃貸借ヲ保持シテ借賃ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

公用徴收ノ爲メ賃借物ノ一分カ徴收セラレタルトキハ賃借人ハ常ニ借賃ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

（栗塚）保持ハ例ニ從ヒ維持トシ末項ハ公用徴收トアル徴收ノ二字ヲ削リ一分カ徴收セラレタルトアリシテ一分ノ徴收アリタルトシタシ（元尾崎）公用徴收ト云ヘル徴收ノ文字ヲ削除スルハ可ナルモ一分カ徴收セラレタルトアルハ原案ノ儘ヲ可トス可決ス

第百五十九條　期間ノ定メ有ル賃貸借ノ終リタル後賃借人仍ホ收益シ賃貸人之ヲ知リテ故障ヲ爲サヽルトキハ新賃貸借暗ニ成立シ前賃貸借ト同一ノ負擔及ヒ條件ニ從フ



然レトモ前賃貸借ヲ擔保シタル抵當ハ消滅シ保證人ハ義務ヲ免カルル

新賃貸借ハ下ノ數條ニ記載シタル如ク解約申入ニ因リテ終了ス

（元尾崎）抵當ハ消滅シ保證義務ヲ免カルト云フハ今日民間ノ習慣ニモ違反スヘシ（委員長）前條一分ノ減失ト云フ場合ニハ第百三十八條ノ全部ニ從フコトヲ得スシテ同第一項ニ從ハサルヘカラス然ルニ前條ハ契約ヲ銷除スルヲ得ヘキカ如シ（南部）三分ノ減失ト云ヘルヲ三分一以上トスレハ不都合ナシ（尾崎）三分一以上ノ減失ニアラサレハ契約ヲ銷除スルヲ得スト云フハ不可ナリ假令ハ地面ノ一分ヲ減失シタルモ其一分ハ收穫上ニ必要ナル部分ナルトキハ最早借地ノ必要ヲ見サルナリ（箕作）前條ハ原案ノ儘ニテ明了ナリヤ（栗塚）第三百三十八條ト云フコトアルヲ以テ明了ナリト思考ス（委員長）三分ノ減失ト云フハ

三分一以上ナルヘシ三分一以上ノ滅失アラサルニ直チニ契約解除ノ請求ヲ受クルハ穩當ナラス（渡）收益ヲ得サル場合ニ於テハ假令借地ノ一部分ナルモ契約ハ解除セシノサルヘカラス（委員長）其場合ハ第三百三十八條第一項ニ明記アリ（渡）第三百三十八條ハ收益ニ付テ云ヒ前條ハ借物ニ付テ云ヒシナラン（箕作）ホアソナート氏ハ三分一以上ノ滅失ニ至ラサレハ敢テ取損ナシト思惟シタルナラン（松岡）收益ノ損失モ三分一以上ト云フ定ヲ置キタレハ賃借物ニ於テモ三分一以上ノ滅失ノ定トシ尙ホ必要ナル部分ヲ損失シタル場合ト云フ旨ヲ擧示シテハ如何（栗塚）賃借物ノ三分一以上又ハ住居若クハ營業ニ必要ナル部分ノ滅失シタルトキハ賃貸借ノ銷除云々トシテハ如何可決ス

第百六十條　家具ノ附キタル家屋ノ全部若クハ一分又ハ離屋ノ賃貸借ニシテ其期間ヲ明示セス其借賃ヲ一年、一月又ハ一日ヲ以テ定



ノタルモノハ一年、一月又ハ一日ノ間之ヲ爲シタリト推定ス但前條ニ記載シタル默示ノ更新ヲ妨ケス

動產ノミヲ以テ目的ト爲シタル賃貸借ニ付テモ亦仝シ

（栗塚）本條ハ「又ハ離屋」ト云フ文字ヲ刪除シタル家屋ノ全部ト云フニ包含スヘケレハナリ（箕作）家屋ノ文字ヲ建物トスレハ「又ハ離屋」ノ文字ヲ刪ルモ可ナリ（松岡）家具ノ附キタルト云フハ膳椀ノ類カ（栗塚）窓掛ノ類ナリ（北畠）此等ハ原語ヲ示シ置ヲ可トス（栗塚）家具又ハ墨建具トスヘシ

第百六十一條　家具ノ附カザル建物ノ賃貸借ハ期間ヲ定メサルトキ又ハ之ヲ定メタルモ默示ノ更新アリタルトキハ年中何ノ時節ヲ問ハス當事者ノ一方ノ解約申入ニ因リテ終了ス

解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一　全家屋ニ付テハ三ケ月

日本學術振興會

第二　建物ノ一分若クハ離屋又ハ倚ホ狹隘ナルモ賃借人ノ商業若クハ工業ヲ營ノル住居ニ付テハ二ケ月

第三　總テ其他ノ家具ノ附カサル住居ニ付テハ一ケ月

（栗塚）本條第一項ハ年中何ノ時節ヲ問ハスト云ヘハ春夏秋冬ト云フカ如クナルヲ以テ何時ニテモトシ第一ハ全家屋ニトアルヲ建物ノ全部ニトシ第二ハ建物ノ一分ニ付テハ二ケ月トシ第三ハ全ク刪除スヘシ此等ハ實際其區別ヲ置クヘカラサルニ依レリ

可決ス

第百六十二條　家具ノ附キタル家屋ノ賃貸借ニ付キ默示ノ更新アリタルトキハ解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一　前賃貸借ノ期間ヲ三ケ月又ハ其以上ニ定メタルトキハ一ケ月

第二　三ケ月未滿ノ賃貸借ニ付テハ原期間ノ三分一

第三　日日ノ賃貸借ニ付テハ二十四時

右規定ハ動産ノ賃貸借ニ付キ默示ノ更新アリタル後ニモ亦之ヲ適用ス

（栗塚）本條ハ報告委員ニテ別項ヲ右規定ハ默示ノ更新後ノ動産ト賃貸借ニ付テモ亦之ヲ適用ストシタシ（元尾崎）更新後ニト云フハ更新アリタル後ノトスヘシ結局報告委員ノ修正ニ可決ス



日本學術振興會

昭和十三年五月二十八日寫了司法省法律調査會藏書

日本學術振興會

日本學術振興會